

平成 29 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

(平成 28 年度施策・実施事業分)

平成 30 年 1 月

宇陀市教育委員会

はじめに

宇陀市教育委員会は、教育行政の充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、平成28年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目毎に分類し、目標の達成状況及び進捗状況について宇陀市教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価を行い、本報告書をまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔抜粋〕

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

宇陀市教育委員会

教育長 福田 裕光

委員 寺澤 亮一

委員 岡本 憲明

委員 巽 礼子

委員 吉川 壽一

1 施策・事業点検及び評価の実施概要

宇陀市教育委員会は、「宇陀市教育大綱」及び年度ごとの「学校教育の指導方針」、「生涯学習の振興指針」並びに「人権教育についての基本方針」等に基づき、社会環境や財政状況に弾力的に対応した施策・事業を遂行しています。

その具体的取り組みに関して目標達成状況等を踏まえた点検・評価を行いました。

今回の点検・評価の対象は平成 28 年度に実施したうちの主な施策・事務事業です。

2 宇陀市教育行政点検評価支援員

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条第 2 項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが点検・評価をした結果について学識経験者 2 人に点検評価支援員を委嘱し、教育面での効率性・有効性の観点から改善点などについてご意見をいただきました。

施策・事業を見直す上で、点検評価支援員の市民の視点に考慮した指摘を総合的かつ客観的に捉え、また、真摯に受け止め、職員の意識改革につなげ新たな進展を目指すものです。

■支援員の氏名

高野 精介 氏（宇陀市在住）

西岡 保千代 氏（宇陀市在住）

■点検評価支援員と教育委員会事務局職員による会議開催

平成 29 年 9 月 22 日（金） 午前 9 時～午後 5 時

〔教育委員会活動・学校教育等の概略説明と質疑応答、点検評価支援員からの総括的な意見〕

3 教育委員会の主な運営・活動状況

総合教育会議において、宇陀市の目指すべき教育を「宇陀市教育大綱」としてまとめ、この大綱に基づく 4 つの基本目標とそれらを推進するための 5 つの基本方針に沿った課題に、平成 28 年度から 4 年を目途に取り組んでいます。

平成 28 年度も、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 及び第 14 条並びに第 21 条に基づき、次に掲げる教育に関する事務を管理し、執行いたしました。

- ・教育委員会会議
- ・総合教育会議
- ・教育方針及び教育計画の策定
- ・教育に係る調査及び統計
- ・学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止
- ・事務局及び教育機関の職員の人事
- ・児童生徒の就学
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導
- ・教科書その他の教材の取扱い
- ・事務局及び教育機関の職員の服務及び研修
- ・学校施設及び設備の整備
- ・教職員に対する指導助言
- ・学校保健
- ・学校給食
- ・生涯学習の振興に係る施設の企画及び調整
- ・社会教育の基本計画及び総合調整
- ・社会教育に関する施設の設置及び管理
- ・社会教育団体の指導育成
- ・家庭教育、青少年教育、成人教育及び公民館事業
- ・文化及び芸能の振興
- ・スポーツ・レクリエーションの指導奨励
- ・文化財の保護、活用及び啓発
- ・文化財の指定、調査、研究、記録及び資料の作成 等

◆総合教育会議の開催

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、3回開催されました。

- 平成28年度第1回宇陀市総合教育会議（平成28年6月2日）
 - ・幼稚園及び小・中学校の現状報告
 - ・宇陀市教育大綱の進捗管理について
- 平成28年度第2回宇陀市総合教育会議（平成28年11月30日）
 - ・「学力」と「体力」の向上について
- 平成28年度第3回宇陀市総合教育会議（平成29年2月24日）
 - ・学校における緊急支援マニュアルについて
 - ・就学前教育と小学校教育の円滑な接続について
 - ・スマホ安心安全講演会について

◆教育委員会会議の開催

教育委員会会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 14 条及び「宇陀市教育委員会会議規則」に基づき、平成 28 年度は定例会 12 回と臨時会 3 回、合計 15 回の会議を開催しました。

会議では、施策に関して議論を交わし、事務局と連携して施策を推進しています。会議は原則公開しています。平成 28 年度の傍聴者は 4 名でした。

また、会議終了後に、複雑化する多様な教育課題や子どもを取り巻く諸問題について意見交換や議論を交わし、理解を深めています。

◆教育委員会審議案件等の実績

教育委員会会議では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「宇陀市教育長に対する事務委任規則」の規定に基づき、種々の案件について十分な議論、審議をしました。

さらに、各担当課から所管する事務について詳細な報告や協議を行うことで、教育委員会と事務局が同一の施策の方針のもとで、一層事業が充実、推進されたと考えています。

<平成 28 年度の審議案件>

■4 月臨時教育委員会（4 月 14 日）

- ・宇陀市就学指導委員会委員の委嘱について

■4 月臨時教育委員会（4 月 20 日）

審議案件なし、協議・報告事項のみ

■4 月定例教育委員会（4 月 27 日）

- ・宇陀市高等学校生徒下宿費等補助金交付要綱の制定について
- ・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について
- ・スポーツ推進委員の委嘱について

■5 月定例教育委員会（5 月 25 日）

- ・宇陀市社会体育施設条例規則の一部改正について
- ・宇陀市生涯学習施設管理運営規則の一部改正について
- ・宇陀市松山地区まちなみギャラリー管理規則の一部改正について

■6 月定例教育委員会（6 月 29 日）

- ・学校給食センター運営協議会委員の委嘱について
- ・宇陀市公民館管理運営規則の一部改正について
- ・宇陀市立幼稚園に勤務する職員に係る私有自動車等の公務使用に関する取扱規程の制定について

■7 月定例教育委員会（7 月 29 日）

- ・宇陀市社会体育施設条例施行規則の一部改正について

- 8月定例教育委員会（8月24日）
 - ・平成28年度宇陀市教育行政点検評価支援員の選任について
- 9月定例教育委員会（9月29日）
 - ・行政不服審査請求について
- 10月定例教育委員会（10月21日）
 - ・行政不服審査請求について
 - ・宇陀市教育委員会会議傍聴規則の一部改正について
- 11月定例教育委員会（11月29日）
 - ・行政不服審査請求について
- 12月定例教育委員会（12月26日）
 - ・宇陀市松山伝統的建造物群保存地区計画の一部改正について
- 1月定例教育委員会（1月31日）
 - ・宇陀市就学指導委員会条例の一部を改正する条例について
- 2月定例教育委員会（2月22日）
 - 審議案件なし、協議・報告事項のみ
- 3月臨時教育委員会（3月15日）
 - ・平成29年度県教職員人事異動の内申について
- 3月定例教育委員会（3月29日）
 - ・宇陀市就学援助に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市ぬくもり修学奨励資金支給要綱の一部改正について
 - ・宇陀市社会体育施設使用料の減免に関する要綱の一部改正について
 - ・宇陀市文化財の指定解除について

◆教育委員会会議以外の活動

[学校訪問]

学校長等から、今年度の学校経営の重点項目、教育課程の特色、創意工夫の点などについて説明を受け、その後、「学校教育法施行規則」及び「宇陀市学校管理運営規則」に基づく次に示す各種表簿を点検しました。

＜各種表簿＞

学校日誌・出勤簿・旅行命令簿・教育計画書（教育課程）
指導要録・健康診断に関する表簿・薬品管理簿等

学校施設・設備の視察・点検を行い、児童・生徒等の学習・授業の様子を参観しました。

その後、改善点について意見交換を行うとともに教育の課題を探り、学

校長等に対し指導・助言を行いました。

また、入学式、卒業式、体育大会等学校行事への参加を通じて、児童・生徒の活動状況を参観しました。

奈良県教育委員会が定める「学校教育の指導方針」ならびに「宇陀市学校教育の指導方針」に添った教育がなされているか、教育委員、教育長、指導主事及び事務局職員、さらに県教育委員会事務局教職員課の管理主事も加わり、次に示す観点で実態を調査しました。

＜実態把握の観点＞

県及び市の学校教育に関する方針に添った重点施策
学校の経営方針・教育課程（教育方針と重点指導）
特別支援教育・道徳・人権教育・生徒指導・研究主題
職員研修・児童生徒の安全確保と危機管理・評価の実施と公開
家庭や地域との連携等

平成 28 年度は、5 月から 6 月にかけて小学校 6 校、中学校 4 校、幼稚園 3 園、こども園 2 園、保育所 3 所を訪問しました。

◇榛原東小学校

榛原小学校 平成 28 年 5 月 24 日
榛原西小学校

◇榛原中学校

室生中学校 平成 28 年 5 月 25 日
室生小学校

◇榛原西幼稚園

大宇陀こども園 平成 28 年 5 月 26 日

◇菟田野小学校

大宇陀小学校 平成 28 年 5 月 27 日

◇しらゆり保育園

榛原北保育園 平成 28 年 5 月 30 日

◇榛原幼稚園

菟田野保育所 平成 28 年 5 月 31 日

◇榛原東幼稚園

室生こども園

平成 28 年 6 月 2 日

◇大宇陀中学校

菟田野中学校

平成 28 年 6 月 7 日

[宇陀市学校アドバイザーチーム学校訪問]

学校は、教育活動を通して児童・生徒の豊かな人間形成を図るため、質の高い教育を提供する責務があり、活力ある組織としての総合力を発揮することが求められています。そのため、学校経営、教育活動について絶えず見直し、学校改善（学校経営改善、授業改善）を図ることが重要な課題となっています。

そこで、宇陀市教育委員会として、単に学校改善を求めるだけでなく改善の方向性や具体的方策を示すため、学校アドバイザーチームを設置し、各学校を計画的に訪問しました。

平成 28 年度の訪問は市内小学校 1 校、中学校 2 校でした。

◇榛原小学校

平成 28 年 10 月 18 日

◇榛原中学校

平成 28 年 11 月 15 日

◇大宇陀中学校

平成 28 年 11 月 18 日

[教育委員・教育長研修等]

◇奈良県都市教育長協議会

平成 28 年 4 月 18 日（奈良市）

平成 28 年 7 月 25 日（橿原市）

平成 28 年 10 月 19 日（奈良市）

平成 29 年 2 月 17 日（橿原市）

◇近畿都市教育長協議会定期総会

平成 28 年 4 月 21 日～22 日

（奈良県橿原市・五條市）

〃

研究協議会

平成 28 年 10 月 27 日～28 日

（奈良県橿原市）

◇全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会

平成 28 年 5 月 19 日～20 日

（徳島県徳島市）

◇奈良県市町村教育委員会連合会会議

平成 28 年 5 月 9 日（奈良市）

◇近畿市町村教育委員会研修大会

平成 28 年 10 月 25 日

（和歌山県紀の川市）

◇奈良県市町村教育委員会研修大会

平成 28 年 11 月 11 日（御所市）

以上の研修を通じて、自己研鑽に努めるとともに教育事情調査や教育相談等の日常活動に努めています。

4 各施策・事業の取組状況と支援員の意見

各施策・事業点検評価シートは、「宇陀市教育大綱」に沿って、項目ごとに主な施策・事業を点検し、評価した結果です。

シート中の『達成度』『必要性』『有効性』とは、教育委員会が次の基準により判断したものです。

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| A | 高い | （概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた。） |
| B | やや高い | （ほぼ目標を達成したが、改善の余地がある。） |
| C | やや低い | （目標をあまり達成できなかったため、改善を要する。） |
| D | 低い | （目標を達成できなかった。） |

また、『点検評価支援員による総合評価』『今後の方針』については、それぞれの欄外に評価項目を 5 段階評価とし、※印で示しています。

施策・事業の点検・評価 一覧

宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業		自己評価			総合評価
		達成度	必要性	有効性	
1	確かな学力・規範意識・体力の向上				
1	小中学生基礎学力向上事業	B	A	A	1
2	外国語活動指導助手設置事業	A	A	A	2
2	夢を育む教育環境づくり				
3	学校給食賄材料購入事業	A	A	A	2
4	安全・安心メール配信システム運営事業	A	A	A	2
5	教育施設の耐震化（小学校）	B	A	A	3
6	教育施設の耐震化（中学校）	A	A	A	5
7	教育施設の大規模改修（中学校）	A	A	A	2
8	総合体育館・総合運動場運営事業	B	B	B	2
9	室内温水プール及びテニスコート管理運営事業	B	B	B	2
10	図書館機能充実事業	B	A	B	1
11	図書返却ポスト事業	B	A	B	2
12	寄贈資料の管理運営事業	A	A	B	1
3	地域全体で子育てを				
13	ぬくもり修学奨励資金支給事業	A	B	B	2
14	教育相談事業	A	A	A	1
15	（1）適応指導教室「はばたき」	A	A	A	1
16	（2）通級指導教室「ほほえみ」	A	A	A	1
17	青少年育成支援事業	B	A	B	1
18	子ども活動支援事業	B	A	A	1
19	子どもフェスタ事業	C	A	A	1
4	人権文化の創造				
20	公民館管理運営事業	A	A	A	1
21	各種講座・教室事業	A	A	A	2
22	地域公民館活動支援事業	A	A	A	4
23	市美術展事業	B	A	A	2
5	郷土を誇り郷土を愛する人材づくり				
24	文化財保存修理等補助事業	A	A	A	2
25	薬の館管理運営事業	A	A	A	2
26	重要伝統的建造物群保存地区保存事業	A	A	A	2
27	埋蔵文化財発掘調査事業	A	A	A	2
28	街なみ環境整備事業	A	A	A	2
29	史跡宇陀松山城跡保存整備事業	A	A	A	1
30	史跡森野旧薬園保護事業	A	A	A	2
31	国指定天然記念物等保護再生事業	A	A	A	1
32	小学校水泳教室事業	B	A	A	1
33	水泳教室事業	B	A	A	2
34	宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業	A	A	A	1
35	大人のための運動教室事業	B	A	A	1
36	宇陀シティマラソン事業	A	A	A	1
37	市民スポーツ大会事業	B	A	A	2
38	近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部	A	A	A	2

自己評価 「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 小中学生基礎学力向上事業		所管課	教育総務課			
事業の概要	小中学生の基礎学力向上を図るため、市教育委員会では、『基礎学力を大切に「生きる力」と「夢」を育む教育の実現』をスローガンとして「学びの広場UDAプラン」事業として、市の教育の諸課題に応じた学校教育及び幼児教育に係る教職員研修、調査及び研究、教育相談、適応指導教室、特別支援教育心理等専門家チームの派遣等を実施。						
目標・実績	<p>「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな心身」を育て、子どもたち一人一人が自信を持って生涯にわたって幸せに生きていくための力をつけることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル教育の推進(ALTの派遣・英語スピーチコンテスト・サイエンスラボ・夢先生授業) ・規範意識の醸成(挨拶運動、道徳授業の研修会、禁煙・交通安全等講演会) ・いのちの教育、人権教育の推進 						
教育自己評価委員会の	成果と課題						
	ALTによる英語授業や英語スピーチコンテスト、サイエンスラボ、夢先生授業の実施により子どもたちが授業に興味を持ち、意欲をもって授業に取り組めるような環境づくりに努めた。今後は教師の授業力、家庭教育力を高めていくためにも「教育センター」機能のさらなる充実を図り、事業の質を向上させ学力向上につなげていくことが課題である。						
	達成度	B	必要性	A	有効性	A	
評価理由	授業に対しての熱意や態度についてはポイントが上昇傾向であるが、家庭学習については全国や県平均よりポイントが低い。		評価理由	子どもたちの自己肯定感を育み、一人一人が自信を持ち、自尊意識を培い、生涯にわたって幸せに生きていく力をつけるために重要。		評価理由	子どもたちが夢や意欲を持って学習に取り組み、規範意識や基礎学力向上につなげるために有効と考える。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・基礎学力の向上には、指導法の改善・工夫と、学ぶ意欲の増強が求められる。いかにして学ぶよさを実感させ体得させるか、このことに必要な要素を探りたい。また、学力テストの結果分析から得たことや見えてきたことを、わかる授業づくりや頭・心・体を耕す基盤である学習環境の整備に役立てていただきたい。</p> <p>・「家庭学習の手引き」の活用がどの程度であるか、しっかり検証してさらに有効活用されることを期待する。</p> <p>全国学力・学習状況調査に応じるように、県と宇陀市でも子どもたちの学力調査が実施されている。それぞれの結果を各校において個々に分析し、一人一人の成長につながる資料となるよう取り扱ってほしい。教職員にプロ意識や専門性がますます要求されている現在、教職員の資質向上のための教育センター講座をさらに工夫されたい。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
--------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>「学びの広場UDAプラン」事業の実践及びサイエンスラボ・夢先生授業などのグローバル教育の推進や、「家庭学習の手引き」の活用により徐々に学力向上の効果は上がっていると評価している。教職員の授業力向上のための研修会も積極的に行っており、引き続き研修の充実に努める。また、児童生徒の全体的な学力向上には、全国学力・学習状況調査結果について分析し、効果的な対応策の実施が必要である。また家庭・地域とも連携し、あいさつの実行、規範意識の向上、自尊感情の醸成など継続的な取り組みを進める。</p>	事業の総合評価 【 1 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 外国語活動指導助手設置事業				所管課	教育総務課
事業の概要	ALT(外国語指導助手)を配置し、市内6小学校の外国語活動授業で、クラス担任と連携し、Hi, friends!(副読本)を活用したチームティーチングを行う。小学5、6年生のクラスに対し年間30回、小学校1～4年生のクラスに対し年間15回ALTを派遣した。(外国語活動及び国際理解に関する教育の補助・外国語教材作成の補助) また、幼稚園、保育所、子育て支援センターに年間各10回訪問し、英語指導を行う。					
目標・実績	外国語活動において、音声を中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としている。 幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことによって英語に対する関心や興味が高まり、英語力の向上につなげていきたい。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	子どもたちはネイティブな英語に触れることができる授業を体験している。また、ALTの国の生活や行事などを聞くことができ、日本との違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くことができる。今後もALTのチームティーチングの仕方を工夫し、より効果的な外国語活動の指導につなげていきたい。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことにより、児童の英語に対する関心・興味が高まり学習への準備効果が期待できる。		次期学習指導要領の改訂で小学5～6年生で英語が教科化される見通し。外国語指導の充実が重要となっている。		英語に対する関心を深め、国際感覚を磨くことにつながり、英語学習への環境づくりが期待される。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・2020年、小学5・6年生では英語が正式な教科となり、小学3・4年生では外国語活動が求められることを踏まえ、ALTの活用意義はこれまで以上に大きくなり、より外国語に慣れ親しむことが求められる。一方、こうした外国語の感性や感覚を育てる活動と並行して、日本語が持つ独特の良さに研ぎをかけた。</p> <p>・ALTと小学校教員が、TTという形で教室で学習活動を展開していく上で、英語に対する苦手意識を払拭することが子どもにとってもいい影響を与えると考える。英語はコミュニケーションの一つにすぎず、話せることだけが求められるわけではない。人としてお互いが理解し合えることが必要であり、そのためには英語も子どもの成長を助ける一つのツールにすぎない。わかるわからないではなく、楽しいを全面に出した学習活動の展開のためにALTを活躍させてほしい。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>国際社会において活躍できる人材育成には、外国語教育を一層推進していく必要があり、そのためには環境整備が極めて重要である。今後、小学校での英語の正式な教科化に向けて教育環境の整備が必要である。ALT以外の整備も必要となるが、外国語指導助手については継続して配置し、英語や異文化への興味・関心が高まるような事業を積極的に企画し、さらに、コミュニケーション力、英語力育成への環境を整えるため、外国語指導助手の効果的な活用を図っていく。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	<宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業> 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 - 学校給食賄材材料購入事業		所管課	学校給食センター		
事業の概要	子どもたちに「安全・安心でかつおいしい給食」を提供するため、国産物資、国内加工、無添加食材を基本として購入する。 購入においては、特に地場産を中心とした旬の食材を積極的に活用する。 まち・ひと・しごと創生総合戦略に、「学校給食地産地消促進事業」として数値目標を掲げ、市単独予算措置を受け地産地消を推進している。 また、県給食会との連携を深め、情報入手を積極的に行いながら、食材の安全確認を行う。					
目標・実績	使用食材の安全衛生管理を徹底する。管理方法としては、次の4項目を実施している。①食材の産地表示の義務化 ②放射能で出荷制限のある食材は、放射能物質検査済証の提示 ③加工食品は、原材料及び産地確認 ④学校給食衛生管理基準に基づく食品検査を複数回実施 また、給食のアレルギー対応として、献立の成分内容を明確にして、アレルギー除去対象の保護者及び希望者に情報を提供する。 地場産物(市内・県内産)の積極的な利用により、地産地消を推進する。 【まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標】 学校給食地産地消率(市内産野菜・きのこ類の重量比率) H27(基準値):10.55% ⇒ H31(目標値):20.00% H28(実績値):19.19% 学校給食費 食材購入費 :113,020,973円 地方創生総合事業費 食材購入費 :1,499,056円					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 地場産物(市内、県内産)を使用した献立による「安全・安心でかつおいしい給食」を提供することを心がけ、また、市内産の野菜等を意識的に購入し、地産地消の推進を図っている。 献立に対する保護者の声を聞く場として、給食試食会を5校3園で10回実施し、255名の参加があり、意見等は献立の参考としている。食育授業を、5校で21回開催するとともに、2校の施設見学及び職場体験の受け入れなどにより、給食に対する関心や理解を深めている。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	「安全・安心でかつおいしい給食」を提供することができた。 地産地消率については、目標値には届かなかったが、一定の成果が見られた。		評価理由	衛生管理を徹底するため、産地表示の義務化や関連書類の提出を求めることにより、使用食材の安全を確認できる。	
			評価理由	試食会などでの情報が、献立の参考になる。献立の成分内容などの情報の共有により、効果的なアレルギー対応ができる。 食育により、食に対する関心や理解が深められる。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	・食材の徹底した安全衛生管理や地産地消の積極的な推進をはじめ、給食甲子園での特別賞の受賞等、食は「人を良くする」と表記されるように、「大人になっても思い出に残る給食を」と、食・食育への日々の取り組みの姿を高く評価し、感謝する。 ・宇陀市給食センターの給食に対する姿勢は、他の市町村の給食状況に比べるとすばらしいものがあると考え。限られた予算の中で創意工夫がされ、子どもたちに「安全・安心でかつおいしい給食」を提供されている。施設の老朽化等課題は山積しているが、子どもたちの健やかな成長の一翼を担っている給食ということに誇りを持って、工夫をしていただきたい。 <div style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</div>
------------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性> 使用食材及び施設等の安全衛生管理を徹底し、地場産物(市内、県内産)を使用した献立による「安全・安心でおいしい給食」を提供することを継続する。 アレルギー対応については、正確な情報提供をするとともに、確実な除去食の提供に努める。 市単独補助金を有効に活用し、地産地消の推進を図る。 保護者の声を聞く場としての試食会や、食に対する関心や理解を深めるための食育授業・施設見学・職場体験などを通して、食育を推進する。 <div style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</div>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 — 安全・安心メール配信システム運営事業	所管課	教育総務課			
事業の概要	保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・学童保育室・子育て支援センターの保護者を対象として、学校等からの様々な連絡や緊急時の安否確認等、双方向の連絡等が行えるメール配信システム。 このシステムの特徴は、一方的に送信するだけでなく、回答機能を装備していることにより、各種アンケートや会議の出欠等、迅速かつ的確な集計等が行えることである。 また、気象庁と連携していることから気象警報発令時には即座に気象メールが配信され、地震等の緊急時にも安否確認が自動的に発信される。					
目標・実績	保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校・学童保育室・子育て支援センターの保護者及び教職員、教育委員会事務局職員が登録し、メール配信システムを構築することによって、緊急時の情報伝達が一斉にできることに加え、情報を共有することができる。それが子どもたちの生活の安全安心につながる。 9割を超える登録があり、学校行事、気象警報時、給食に関する緊急連絡、感染症対策等の連絡手段としての備えとなり、また効果を発揮した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 幼稚園・保育所・小学校・中学校・子育て支援センター・学童保育室の職員及び児童・生徒の保護者並びに教育委員会事務局職員等の大多数が登録している。 年度末に学年の切り替え作業で登録済みの全児童・生徒分を消去しなければならないことが課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 システムの利便性が利用者に評価され、登録率は増加している。		評価理由 必要な情報を、正確かつ迅速に登録者へ伝達することができる。		評価理由 このシステムを活用することにより、正確かつ迅速な情報伝達が行えることから、緊急時の活用も含めて有効な情報伝達手段のひとつである。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・防犯や火災、気象等に関する緊急の情報を正確かつ迅速に伝達できる当配信システムの活用意義は、今日的な必要性からも画期的で多大である。一方、発信・受信の双方向の機能を有すシステムであるため、個人情報の保護からも細心の配慮が常に欠かせない。</p> <p>・新しい配信システムに乗り換えたがために、年度末での更新作業の手続きが毎年必要になったというような課題が出てきたようだが、利便性・必要性が優先されているので、しっかり活用されていると考えられる。緊急時の対応にも効力を発揮するが、いろいろなリスクも考えられるので、管理体制をさらに厳しくしておくことが必要であろう。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>携帯端末の利用は当然と言えるような社会状況になりつつある。メール配信システムの登録者は増加し、保護者に対するサービスが浸透してきた。利用しない保護者への対応を確実にし、情報伝達のスピード感を出していくためには有効な手段と考える。今後もシステムのセキュリティに注意しつつ、防犯・災害に活用することに加え、学校独自の情報伝達を工夫し、より充実したサービスを目指す。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 ー 教育施設の耐震化(小学校)				所管課	教育総務課
事業の概要	室生小学校3期工事 室生小学校3期工事監理業務委託 室生小学校屋内運動場改築等工事4期 榛原西小学校屋内運動場耐震補強等工事 榛原西小学校屋内運動場耐震補強等工事監理業務委託					
目標・実績	学校施設は、児童が1日の大半を過ごす活動の場であり安全性の確保は重要課題である。また非常災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことから、施設の耐震化を進めるとともに経年による損耗、機能低下の復旧措置を図る。					
教育委員会 自己評価	成果と課題					
	平成24年度に作成した宇陀市学校施設等耐震化計画に基づき、国が示す平成27年度予算(市予算では平成28年度)による耐震化完了に向け、計画的に耐震化を進め学校施設の耐震化を完了した。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由 室生小学校、榛原西小学校は計画通り事業が完了。 文部科学省の基準ではなく国土交通省の基準となる榛原東小学校の渡り廊下の耐震改修工事は、平成29年度から取り組む予定。		評価理由 学校施設は児童・生徒が1日の大半を過ごす施設であり、また、地域の避難所としての機能を有しているため、耐震基準を満たし経年による施設の老朽に対する機能復旧は必要。		評価理由 学校施設の改修により教育環境の改善及び避難所としての安全な施設にすることで安全・安心な街づくりができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	・学校施設の耐震化工事や教育施設の整備が遂行され、学校が地域の避難所となる機能に応えられるようになった。今後も年次計画的に施設を点検し、事業の継続を願いたい。 ・計画通りに事業が完了したとはいえ、災害はいつどのような状況で発生するか予測が難しい。非常時に安全な施設として、今後とも常に点検を怠らず、メンテナンスに努められたい。					
	点検評価支援員による総合評価 【 3 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 国は平成27年度予算により耐震化を終わらせる方針である。本市では予算の繰り越しにより平成28年度で耐震化事業を完了した。 国土交通省の基準では榛原東小学校の渡り廊下の耐震改修工事が残っているが、平成29年度から設計に取り組み、平成30年度には工事を実施する予定である。					
	事業の総合評価 【 3 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 — 教育施設の耐震化(中学校)				所管課	教育総務課
事業の概要	榛原中学校校舎耐震補強等工事 榛原中学校校舎耐震補強等工事監理業務委託					
目標・実績	学校施設は、生徒が1日の大半を過ごす活動の場であり、非常災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことも想定される。施設の耐震化を進めるとともに経年劣化による損耗、機能低下の復旧措置を図る。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	平成24年度に作成した宇陀市学校施設等耐震化計画に基づき、国が示す平成27年度予算(市予算では平成28年度)による耐震化完了に向け、計画的に耐震化を進め学校施設の耐震化を完了した。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 平成28年度事業完了。		評価理由 学校施設は児童・生徒が1日の大半を過ごす施設であり、また、地域の避難所としての機能を有しているため、耐震基準を満たし経年による施設の機能復旧は必要。		評価理由 学校施設の改修により教育環境の改善及び避難所として安全な施設にすることで安全・安心な教育施設の充実が行えた。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設は、災害時の避難所となる重要な働きや、防災拠点の機能を有している。耐震化の施策により、小中学校とも校舎の耐震補強工事は一応完了されたが、施設の点検・補修・補強の継続をお願いする。 計画通りに事業が完了したとはいえ、災害はいつどのような状況で発生するか予測が難しい。非常時に安全な施設として、今後とも常に点検を怠らず、メンテナンスに努められたい。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 5 】</p>					
--------------	--	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 国は平成27年度予算により耐震化を終わらせる方針である。本市では予算の繰り越しにより平成28年度で耐震化事業を完了した。 平成28年度の完了後は、施設の点検・補修・補強や大規模改造及び長寿命化に取り組むが耐震化事業は終結する。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 5 】</p>					
-------	---	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 ー 教育施設の大規模改修(中学校)				所管課	教育総務課
事業の概要	榛原中学校校舎大規模改修工事設計変更業務 菟田野中学校大規模改修工事設計変更業務					
目標・実績	学校施設の定期的な点検や修繕を行うことにより、経年による損耗、機能低下の復旧措置を図り、良好な教育環境を維持提供する。					
教育自己 委員会の 評価	成果と課題 菟田野中学校は平成4年度建設後、初めての大規模改修を実施するための平成26年度に作成した設計について変更を加えた。 榛原中学校については、前年の耐震化工事に続き今年度は残りの校舎の大規模改修工事のための設計変更を行った。 工事については、平成29年度へ繰り越し実施する。					
	達成度	A		必要性	A	
	有効性	A		有効性		A
	評価理由 工事費については繰り越しを行い、平成29年度事業完了予定。		評価理由 菟田野中学校は、特に屋内運動場の雨漏りがひどく、緊急対応を必要としている。また国の補正予算による国庫補助金の採択を受け、財源的にも有利な条件が整っている。		評価理由 学校施設の改修により教育環境の改善ができる。また雨漏り等による劣化を防ぐことができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価員 からの 意見	・年次的に学校施設の大規模改修工事を計画・遂行されていることに感謝し、よりよい安心・安全な環境の下での教育活動に期待する。 ・耐震化を済ませたとはいえ、経年劣化が著しい校舎は速やかに改修され、子どもたちの教育環境を整えられることが望ましい。この2校については平成29年度で完了予定だが、他の学校設備においても、常に環境改善を図られたい。					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 大規模改修は、平成29年度で榛原中学校の校舎と菟田野中学校の校舎及び屋内運動場等について実施する。これにより大規模な改修は、一旦終了する。 その後は、運動場や電気設備等をはじめとする施設の点検・補修・補強に取り組む。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 総合体育館・総合運動場運営事業		所管課	総合体育館
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、体育館・運動場の効率的な管理運営を行い、安全で快適に利用いただけるように努める。			
目標・実績	体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めるとともに、利用促進を図る。			
		27年度	28年度	増減率
	体育館利用者数	75,521 人	48,380 人	64.1%
	グラウンド利用者数	8,572 人	8,592 人	100.2%
	合計	84,093 人	56,972 人	67.7%
教育委員会 自己評価	成果と課題 ・体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めた。			
	達成度	B	必要性	B
	有効性	B	評価理由	評価理由
	評価理由 平成27年度と比較すると利用者は減となっているが、前年度は高校総体の関係で一時的に利用者が増となったためである。通常時の平成26年度と比較すると約5,700人の増となっている。	評価理由 大きな大会や集会を行う施設として利用度が高い。	評価理由 スポーツ振興と体力づくりの施設として、また、イベントや集会等の多目的利用施設として市民からの評価が高い。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	・市総合体育館は健幸都市ウェルネスシティ事業推進の拠点であり、大きな文化的諸行事が開催できる施設として、多面的な働きを有している。利用者の増加が益々予想されるが、体育館・グラウンド等の有効な管理運営を今後も願う。 ・新電力の導入により、光熱費を抑えることができたという。厳しい予算状況でメンテナンス等に費用がかかる中、少しでも有効活用ができ、市民に還元できるよう、さらに工夫をされたい。 市内で一番大きい体育施設として、特に体育館のニーズを増やしていただきたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 限られた予算と人員の中で創意工夫しながら、今後も利用者のニーズに応えられるような安心、安全な施設の管理運営に努めていく。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 — 室内温水プール及びテニスコート管理運営事業			所管課	総合体育館
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、室内温水プール及びテニスコートの効率的な管理運営を行い、安全で快適に利用いただけるように努める。				
目標・実績	水泳やテニスを通してスポーツ振興と健康の増進を図り、効率的な管理運営と利用者の増加を進める。				
		27年度	28年度	増減率	
	プール利用者数	40,762 人	42,420 人	104.1%	
	テニス利用者数	5,651 人	4,835 人	85.6%	
	合計	46,413 人	47,255 人	101.8%	
教育自己評価委員会の	成果と課題 ・老朽化した施設設備等の一部を改修した。 ・施設の長寿命化のために、今後も年次的な改修が必要である。 ・小中学校の水泳授業にも使用されている。				
	達成度	B	必要性	B	有効性
	評価理由	評価理由		評価理由	
	設備の一部を改修したことにより、安心・安全な利用が期待できる。プールの利用者が増加した。	・水泳を通しての健康や体力づくりに利用度が高い。 ・小中学校の体育の水泳授業にも使用されている。		幼児・小学生等の水泳技能向上や市民の健康と体力づくりに貢献している。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・小中学校の水泳学習が環境の整備された温水プールを活用して行われていることはありがたい。これからも有意義に利用促進していくためには、水泳指導上の安全対策や機械設備の年次の点検改修が必要であり、常時の課題として本年のように対応していただきたい。テニスコートの管理運営についても同様である。</p> <p>・テニスコートの利用者数が減少しているが、屋外におけるスポーツを良い環境で続けられるよう、施設設備の改修を進め、利用者の増加を図るよう、アピールをされたい。利用しやすい施設として今後も管理運営を行い、市民の健康増進に貢献されたい。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
--------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>今後も利用者が安心、安全な利用ができるように年次的、計画的な設備等の改修を行い、快適な利用環境を提供することにより、利用者の増加に努める。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 — 図書館機能充実事業	所管課	中央図書館
-----	---	-----	-------

事業の概要	図書館システムを活用したウェブサービスの促進を目指し、図書館資料の活用を促す。また、平成26年度末に宇陀市子ども読書活動推進計画が策定され、宇陀市の現状と課題を保育現場や学校現場の先生方と共有し、今後に生かすことで、より読書活動を活性化させる。
-------	--

目標・実績	市民の皆さんに“いつでも、どこでも、誰でも”読書を楽しむことができる生涯学習環境をつくることを目指す、そのためにアクセスポイントでの本の貸出・返却やインターネット予約などの図書館システムの利用を促進させて、利用率の向上を図る。またHPやツイッターなどで情報提供を定期的に行い、図書館運営への参加を促す。また子ども読書活動推進計画の策定を受けて、今後5年間を目途に宇陀市の子どもたちの読書力向上を目指す。 平成28年度実績 ・蔵書冊数 142,557冊 利用人数41,590人 貸出冊数143,822冊 ・子ども読書活動推進計画の策定に伴い、幼稚園・保育所及び小中学校連絡会議を年2回開催し、団体貸出インターネット予約の利用促進を目指した。 幼稚園・保育所団体貸出数…平成28年度4,801冊 小・中学校団体貸出数…平成28年度616冊・市外小学校381冊(東吉野小・御杖小・曾爾小等) ・平成28年度ブックリスト『この本読んで』…作成・配布 ・絵本講座 全3回開催…講師 絵本コーディネーター 富永有季 のべ参加者53名 託児利用34名
-------	---

教育自己評価	貸出冊数・利用人数は毎年多少ではあるが増加している。子どもの読書活動推進計画の策定による、幼稚園・保育所及び小中学校連絡会議も定着してきており、特に学校図書館システムの活用方法等についての担当教諭からの問い合わせも増えてきた。学校と図書館の連携を深めることにより、子どもたちへのアプローチの幅が広がるよう事業を進めていきたい。 図書館機能の活用の一環として、絵本・児童書等の見計らい(実際に本を見て選書する)を連絡会議の中で開催し選書担当の先生からは好評を得ている。 また「大人のおはなし会」2回(参加者52人)や「落語会」3回(参加者70人)歴史講座3回(参加者73人)なども定期的に開催し、生涯学習の一助としての図書館の役割は果たせた。
--------	--

	B	必要性	A	有効性	B
評価理由	図書館と幼稚園及び小中学校等との連携がやや軌道に乗ってきたところなので、さらに連携を深めるよう事業展開を考えていきたい。	評価理由	宇陀市の高齢者率も高まるばかりで、今後子どもだけでなく大人を対象としたイベント等も企画することにより、生涯学習に対する意欲をもち社会参加につなげていきたい。	評価理由	図書館に近い利用者とはそうでない利用者ではどうしても利用率に差ができてしまうため、宇陀市の図書館としての役割を十分に果たしているとはいえない。受取り場所の周知やインターネット貸出等の利用率をあげることで対応していきたい。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員意見から	・若者の本離れが危惧されている昨今、保護者や大人が本を読む姿を通して読書の良さを体得し、共有しあえたらと思う。今後も図書館が担う機能や働きに沿った多様な取り組みや工夫をされ、さらなる充実・深化をお願いする。 ・家庭での大人の読書態度が、子どもの本への興味を育てる一つの要素になる。しかし、時間があればモバイル端末を見ている大人が多く、子どもの本離れが危惧される。絵本の読み聞かせや知らない絵本の紹介を通じて、子どもたちの心に響く体験を増やし、絵本好き本好きの子どもを増やす活動を展開されたい。子ども読書活動推進計画に乗っ取り、教育機関と連携して、子どもたちにより一層本が身近になるよう働きかけていただきたい。
点検評価支援員による総合評価 【 1 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・乳幼児期からの読書意欲の定着がその後の成長過程に大きく影響を与えることを考慮し、親子に対する読書活動の推進に一層の力を注ぐ。 ・読書はまさに生涯学習であり、生涯にわたって市民に関わっていける蔵書の収集と活用の促進を推進する。
事業の総合評価 【 1 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 － 図書返却ポスト事業	所管課	中央図書館			
事業の概要	インターネット(携帯電話)予約を受け、それぞれの受取場所への配送サービス及び、各地域に設置した返却ポストや大宇陀図書館からの返却本の回送を行う。					
目標・実績	返却ポストは、周知によりかなり浸透してきているが、貸出ポイントの利用の増加はまだまだ少ないので、更なる利用者の増加を目指す。 平成28年度返却ポスト利用状況 返却冊数 28,999 冊 貸出冊数(公民館) 146 冊					
教育委員会 自己評価	返却ポストの周知はされているが、インターネット予約等の活用には利用者の増加があまり認められない。利用方法を再検討して貸出場所の利用拡大を図る必要がある。					
		B	必要性	A	有効性	B
	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由
	返却ポストの利用は増加傾向ではあるが、貸出場所の周知と利用は昨年よりはやや伸びたものの十分とは言えない。	中央図書館・大宇陀図書館から離れた場所でも公平にサービスを受けることができるのは市民として当然のことであり、そのために、返却ポストや貸出場所の設置は必要である。			本を手にとって選べるのが理想ではあるが、インターネットや新聞・雑誌などで内容を調べ、インターネット予約し、地元受取することも有効な手段である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の配送サービスや返却ポストの設置は利便性が高く、読書活動の啓蒙・深化には有効な方策である。利用者のさらなる拡大と配送返却システムの充実を期す。 ・やはり本は手に取ってみたいと思うが、それがかなわない場合にインターネット貸し出しを利用してもらうことは、図書館が身近にない市民にとって楽しみなことと考える。開館時間を工夫して、週に1日でも午後から開館し、夜の9時まで利用できるようなことはできないだろうか。榛原駅からそれほど遠くなく、仕事帰りの人が利用するのではないかと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返却ポスト利用については、活用方法等の周知に関して再考の余地があり、検討を重ねていく。 ・夜間開館は以前に試験導入したが、費用対効果等の面でメリットが少なく、現状での開館は難しい。今後、図書館利用者が増加し、夜間開館のニーズが高まれば再度、導入を検討する。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 寄贈資料の管理運営事業				所管課	中央図書館
事業の概要	宇陀市に寄贈された約1万冊の貴重資料を宇陀市立図書館の蔵書として登録し、館内閲覧のみの貴重資料ではあるが、メイプルパーク内に玩槭文庫として開室。市立図書館の資料として広く周知する。					
目標・実績	登録した寄贈資料約1万冊を、メイプルパーク内に玩槭(がんしゅく)文庫として開室し、寄贈資料を館内閲覧していただく施設の整備及び管理運営をメイプルパークに委託した。その結果、来館者に対し市立図書館の資料として広く周知することができた。					
教育委員会 自己評価 の	玩槭文庫開設一周年記念行事として8月3日～10日まで絵本作り教室や絵本の原画展(東吉野村オオカミ絵本コンクール受賞作品)などを開催。開催期間中100名を超す参加があり、一定の効果があった。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	B
	評価理由	玩槭文庫の本への奈良県内からの予約等で、県内では玩槭文庫にしかないため、ぜひ閲覧させていただきたいという要望も受けるようになってきた。		評価理由 寄贈された物件は適切に管理運用しなければならない。	評価理由 市外だけでなく市内の利用者に対しても、資料が最も有効に活用できる方策を考える必要がある。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	・貴重な蔵書や資料を市に寄贈していただいた矢野正善さんの想いに沿えるよう、玩槭文庫の保管、周知、閲覧はもとより、活用や運用の工夫をお願いする。 ・専門書が多いと思われるが、展示会などで周知をするとともに、今後さらに、市外へも啓発を計り、貴重な専門書の有効活用を計っていくことを期待する。					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 貴重な資料についての市民の認知度を高めるために、専門性の高い資料についてのスキルアップに努め、職員一人一人が貴重資料のサービスを提供できるようにする。					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・家庭の教育力の向上支援 — ぬくもり修学奨励資金支給事業				所管課	教育総務課
事業の概要	修学困難な生徒に対して修学奨励を図るため、高等学校、大学等の入学支度金として修学奨励資金支給する。					
目標・実績	市の将来のまちづくり活動に取り組む意欲をもってもらい、市の活性化を図る。 平成28年度 高等学校等10名支給 大学等 3名支給					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	入学支度金として現状の金額が妥当なのか検討の余地があるが、長期的な取り組みとしてとらえている。事業効果の計測方法について、適切な指標を見つけ出す必要がある。					
	達成度	A	必要性	B	有効性	B
	評価理由		評価理由		評価理由	
	修学困難な生徒の入学支度金として修学奨励資金を支給することで、進学しやすい環境づくりの一助となることができた。		宇陀市内に在住する高等学校・大学等の入学支度金として、修学困難な生徒に対し修学奨励資金を支給し、市の教育環境づくりを図ることを目的とする。		入学支度金として修学奨励資金を支給することは、修学率の増加につながることで「人を育て文化が薫るまちづくり」の一環として有効性が高いと考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員の見	<p>・保護者の経済格差が子どもの貧困に何かと影響していることが指摘されている。貧困の連鎖を断ち切り、高校や大学等への勉学の夢を育み叶えるため、自治体からの修学奨励資金の給付は意義深い施策である。事業をさらに充実させ、豊かな教育環境づくりをお願いします。</p> <p>・家庭の経済状況が、子どもの進路に大きく影響する。世の中がなかなか景気回復せず、いろいろな家庭事情を抱える子どもたちにとって、奨学金は将来への希望につながる大切な支援である。宇陀市の未来にとって有能な人材を育成するために、支援の一つとして継続されたい。できれば増額を望む。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>修学奨励資金を支給することで就学率が増え、教育を受ける権利を保障することの一助となると考える。財政的な課題はあるが、今後とも継続して進めていく。また、金額等についても検討を行う。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・就学相談、教育相談、子育ての悩み等相談体制の充実 — 教育相談事業	所管課	教育総務課
-----	--	-----	-------

事業の概要	臨床心理士による教育相談業務。主としては発達相談で、心理学的な見地から、保護者や教職員にアドバイスを行ったり、ニーズに応じて心理検査を行う。
-------	--

目標・実績	保護者・学校・幼稚園・保育所の担任、子どもが相談を受けることが可能で、家庭だけ、学校だけでない統一した子どもへの関わりや指導についてのアドバイスが可能であり、必要に応じて発達検査を行い、結果を保護者へ知らせ、相談を進めている。また、専門の相談員によるアドバイスがあるため利用者から評価が高く、幼稚園・保育所を卒園・卒業しても、継続して相談を受けるケースが多いため、今までの良い状態を低下させることなく事業を継続していかなければならない。
-------	--

教育自己評価委員会の	成果と課題					
	問題を抱えている子どもたちが年々増えてきている中で、相談希望者の増加に伴い、相談員にもかなりの負担を強いている部分があり、この事業を継続していく上でその点を考慮していく必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 相談者が抱えている不安や悩みを学校以外の場所で気軽に相談できる機関として確立できた。		評価理由 幼稚園、保育所など早い時期での対応が、その児童に添った形での就学に結びついたり、専門の相談員によるカウンセリングにより児童・生徒だけでなく保護者や教諭にも必要な場所となっている。		評価理由 大宇陀地域事務所という落ち着いた環境で実施することにより、利用者が人目を気にせず相談室に行くことができる。また、相談室と検査室が隣同士であることから子どもも保護者も安心してそれぞれで相談検査を受けることが可能である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意見 から	<p>・小1の壁、中1の壁があるのではと問われている昨今、関係機関と連動した相談活動の継続が大切である。体験入学等の交流を通して不安を解消・緩和させることも一助となるが、まずは保護者が児童・生徒の抱えている悩みや状況をどう受け入れ、ともにどう行動するかが命題といえる。</p> <p>・あまりにも情報が多種多様で、何を信じればいいのか子どもを持つ親の心情は計り知れないものがある。まして子育てに支援が必要と考えられる場合には、不安が優先して、家庭に安定がみられなくなる。子どもにとって居心地のいい場所がなくなれば、ますます安定した成長はみられない。相談員が中心となって保護者や学校が一貫した子育てを継続することで、ぶれない成長が期待できる。相談員の増員が必要である。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>児童生徒の抱える様々な問題への対応に教育相談は不可欠である。特別支援が必要な児童が年々増加し、内容も多様化していく中、補助員等の増員によりその充実に努めてきた。教育相談の需要は多く、今後も教育相談事業の充実へ取り組みが必要であると考え。</p>
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 － 教育センター事業(適応指導教室 はばたき)				所管課	教育総務課
事業の概要	市内小中学校の不登校児童・生徒の自立を図り、在籍校への復帰を促すとともに、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲化を図る。また、不登校児童・生徒等に対する相談を保護者、教職員に対しても行う。					
目標・実績	適応指導教室に通室することで心の居場所をつくり、学習機会を確保することや、不登校の状態にある児童・生徒の学校への復帰を促す。また、学校と連携を深め、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲を高める。教室以外の学習の場を設けることにより、児童・生徒に選択肢を提供できる。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 平成28年度は2名の正式通室生徒がおり、週2日2名の指導員が相談・指導、学校との連携・調整を行っている。また昨年度から教員資格を持った補助員を採用し、学習指導を行い、2名が部分復帰した。1名は4月から高校への通学が決定した。しかし、通室しているのは不登校児童・生徒の一部であり、まだまだ多くの不登校の子どもたちがおり、その子どもたちの居場所づくりが課題である。					
	達成度	A		必要性	A	
	評価理由	正式通室者が2名で、2名とも部分復帰。保護者や教職員へのこの教室の存在が浸透しつつある。		評価理由	長期欠席をしている児童・生徒で学校教員だけの対応では解決をはかれない場合や、学校に拒否感のある児童・生徒に対する受け入れ態勢が必要である。多様な取り組みやきっかけづくりの一步として重要。	
			有効性	A		評価理由
				通室者を自然に受け入れ、落ち着ける場所、自分を理解してくれる場所として重要な存在となっている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 主なる 評価 意見 から	<p>・学校への復帰を目指して設けられた適応指導教室の存在は大きく、不登校児童・生徒の実情を把握し、個々のニーズに沿った指導計画の策定が急がれるが、何より、通室できる者へは勿論、そうでない児童・生徒の実態を探り、安心できる居場所をつくり出すことが肝心である。</p> <p>・いろいろな形でこの教室への配慮が実を結び、よい結果を生み出しつつある。職員が増員されたことも評価に値するが、この教室に通えていない児童・生徒に対する働きかけを、学校と協力しながらより一層進めなければならぬ。子どもの情報を得るためにも、保護者や学校職員と学校との連携が必要であろう。</p>					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>平成28年度は通室者が2名という状況だが、まだまだ不登校児童・生徒の一部である。今後も家庭に閉じこもった児童・生徒や別室登校生が通室することによって、在籍校へ復帰することを目指す。</p> <p>この教室に通えていない児童・生徒に対する課題については、その児童・生徒への働きかけをするために必要となる子どもの情報を得ること及び適応指導教室の存在についての情報周知や保護者と学校との連携が必要であると考え。</p>					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 － 教育センター事業(通級指導教室 ほほえみ)		所管課	教育総務課				
事業の概要	小学校の通常の学級に在籍しているが、特別な教育的支援を必要としている子どもたちへ、担任以外の教育専門員によりそれぞれの子どもの実態に応じて通級による指導を行う。保護者、教職員、児童に対しても相談業務を行う。							
目標・実績	言葉の発達などの問題のため、本来もっている能力を十分に発揮しきれない児童に対し、個々に応じた指導を行い、生き生きと、スムーズに学校生活や社会生活をおくれるように支援する。通級指導児童が23名になり、定期的な指導相談ができています。教職員の相談や指導参観、教育相談も増えています。平成27年度より小学生のみ対象とした結果、相談件数78件、のべ相談回数954回となった。							
教育自己評価委員会の	成果と課題							
	言葉や発達についての相談に対して需要が高く、相談を望む声が多く相談回数が増加している。今後も増加していく傾向にあると思われるため継続的な相談指導が必要である。また、家庭から出て、集団の場に入ることにより、社会性やコミュニケーションについて苦戦することがわかり相談に来られるケースが多く、指導員による適切な指導を図っている。							
	達成度	A	必要性	A	有効性	A		
評価理由	通級指導が必要な子どもたちが、定期的に通級指導を受けることによってコミュニケーション能力を身につけ、上級学校への移行がスムーズになった。		評価理由	言葉やコミュニケーション、社会性に困難を抱えている子どもたちが増えたので、学童期での早期対応、早期療育をすることが必要。需要が増加傾向にある。		評価理由	職員が言葉の専門家であるので、教職員と連携し、言葉の訓練を早くから行うことにより状態が改善されることが多い。特に学童期での関わりが重要であり、教職員や保護者への指導が有効。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・通常学級に在籍する特別な支援指導が必要な児童のための通級指導教室は、極めて大切な取り組みである。コーディネーターと連携し、児童の発達特性に呼応した支援に、専門指導員のさらなる加配置をお願いする。</p> <p>・言葉によるコミュニケーションがうまくいっていないことによる集団への不応は、早期発見・早期対応により改善をみることができるとこの教室が証明している。ニーズは年々増えており、指導員への負担が大きい。榛原東小学校での教室開室も考えられているが、先を見通し専門性を有した指導員の増員を早急に計らいたい。</p>	点検評価支援員による総合評価	【 1 】
--------------	---	----------------	-------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>通常学級に在籍する特別支援が必要な児童に応じた教育環境を確保するために必要な事業であり、今後も継続する必要がある。対象児童が年々増加してきており、適切な支援講師の確保が必要である。そのため関係者の連携を強化し、サポート体制の構築に努め、人材育成を図りつつ、県に対する教員要望等を行う。</p>	事業の総合評価	【 1 】
-------	---	---------	-------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 青少年育成支援事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	青少年の規範意識や社会性の低下が社会現象となり、その要因として親子のふれあいや信頼関係の希薄化、家庭や地域の教育機能の低下等がある。学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子育てをする体制を構築することでこれらを解消し、子ども自身の力を伸ばし、青少年の健全育成と地域の連帯、ふれあいを深めることを目的に広報、啓発活動・有害環境浄化活動を実施した。					
目標・実績	未来を担う子どもたちを健やかに育むために、地域全体で教育に取り組む体制をつくり、地域全体の教育力の向上を目指す。 特に、平成28年度は、スマートフォン安心安全講習会を実施し、インターネット、スマートフォンに潜む危険性及び安全利用についてPRした。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	街頭啓発活動として、市内中高生から募集した青少年健全育成に係る標語を印刷したポケットティッシュを配布し、青少年の健全育成に努める。関係団体を所管したり、様々な支援活動を実施したりする青少年センターの設置が急がれる。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	B
	評価理由 街頭啓発活動や、有害図書の販売時の指導を実施したが、より多くの活動を実施する必要がある。		評価理由 様々な活動を継続して実施し、各方面と連携しながら青少年健全育成を図る。		評価理由 街頭啓発活動や、有害図書の販売時の指導を実施するなど、有効性は高いが単発的になりがちなことから、活動の幅を広げていく必要がある。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全な育成を図るべく、各地域の多様な実情を踏まえて地域の連帯感を醸成することは、必ずや地域の発展に寄与することになる。今後も地域の青少年健全育成に係わる諸団体との連携を図り、広報啓発等の継続した活動をお願いする。 ・地域全体で教育に取り組む体制を作るためにも、青少年の健全育成の拠点となる青少年センターの設置が急務である。退職教員のボランティアとしての参加も考えられる。 	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
--------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成に係わる諸団体と連携を図り、街頭啓発活動や有害図書販売時の指導・スマートフォンの安全利用について、各団体への周知を図っていく。 ・今後、青少年センターの設置については、本市における体制づくりの模索、各市の設置に伴う機能状況・評価を聞き、検討したいと考える。 	事業の総合評価 【 1 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	<宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業> 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 子ども活動支援事業	所管課	生涯学習課			
事業の概要	地域教育力再生の契機として、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を支援することによって、子どもたちの学習補助や環境の整備、登下校の見守りなど子どもたちが安全で安心な学校生活がおくれる環境を整える。					
目標・実績	地域ぐるみで子育てをする体制を構築することにより教育活動の充実や教員が子どもと向き合う時間を拡張し、将来宇陀市を担う健全な青少年の育成を図る。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 市内全小中学校において事業を実施し、それぞれの学校の取り組みにおいて地域の方々との協働を実施した。スクールバスの運行時刻が決まっているため、放課後に行う事業への取り組みに時間の制限がある。地域で意欲的に取り組んでいる事業が補助対象にならないケースがあるなど、一部財政的な課題を抱えている。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	市内全小中学校が事業を実施したが、ボランティアの登録数が増加しない。		評価理由 地域に開かれた学校づくりを目指し、地域の教育力を高めるために必要な取り組みである。	評価理由 地域の人々が学校運営に参画することができる有効な事業である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員が見	・地域に開かれた学校づくりには、学校と地域が相互に支援しあい、学びあうことが必要であり、そうすることで両者の連帯感や地域の教育力が高まることになる。今後も自治体が核となり、各校や各地域の実情を踏まえ、可能な支援の在り方を探っていただきたい。 ・以前は当たり前であった地域全体での子育てがいつの間にか他人事になり、隣組の効力も無くなりつつあることがいろいろな弊害を生む要因の一つともなっている。地域の連帯力を活性化させ、地域全体で子どもとの関わり方を探っている現状の中で、学校も開かれた学校として地域の力を取り入れ、学校が学校の本分を全うできるよう補助をしてもらえるようになれば、お互いが有意義な存在となり子どもの成長が見守られ、健全な成長につながっていくと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性> ・平成29年3月の地教行法の改正により、平成34年3月までに「地域学校協働活動」を活発にするにあたり、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)の設置が努力義務化された。 ・今後、各学校の地域で活躍されている方に「地域学校協働活動推進員」になっていただき、地域や学校の実情に応じた企画・立案、学校や地域住民・企業・団体・機関等の関係者との連絡、調整・地域ボランティアの募集・確保、地域住民への情報提供・助言・活動促進等を実施いただける体制をつくり、子どもの健全な成長につなげていく。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 子どもフェスタ事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	あそび体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに豊かな感性を育み、未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図る。					
目標・実績	あそび体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに豊かな感性を育み、未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図る。事業実施にあたっては、実行委員会を組織して企画立案から実施までを行う。 実施内容は、紙飛行機大会、クラフト、軽スポーツ体験、紙芝居など様々なコーナーなどを準備しながらも、当日は、台風の影響により開催中止とした。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 平成28年度は、大会当日中止となったが、今後も市内の子どもたちが集まり、遊びを通じて交流することを目標に、また、ペットボトルキャップを集め、ポリオワクチンを海外へ届ける事業にも引き続き協力をしていきたい。 参加者 約1,500人を目標に、新しいあそび体験や、軽スポーツを取り入れていく必要がある。					
	達成度	C		必要性	A	
	有効性	A		有効性		A
	評価理由 台風の影響で中止となった。(実行委員会の企画立案から運営までは、市民の主導による事業実施ができた。年々少しずつ内容や模様を変えつつも、参加者の笑顔を中心に据えた事業を目指していた。)		評価理由 市内の子どもたちが一堂に会する機会を設け交流する、他に類のない事業である。		評価理由 体験を通じて仲間づくりや、様々な人との交流が図れ、豊かな心・健全な心の醸成の一助となっている。また、榛生昇陽高校のボランティアの参加もいただけた。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<p>・「人は人によって人となる」。人と接することが少ない現状の中、遊びやスポーツレクリエーションを通して人を浴びることの良さを経験・体験できることは子どもの成長に欠くことができない要素となる。この命題のもと、本事業が常に工夫されていることを多大に評価したい。</p> <p>・子どもの成長にとって欠かせない「あそび」が変わってしまい、子ども同士の関わりが希薄になっている中、このような形でも子どもたちが多く集まり一緒に過ごすことは、連帯感を育み、力を合わせる爽快さなどを体感することができる良い機会である。天候に左右され中止になったことは残念だが、継続して実施されたい。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
------------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい取り組みを毎回取り入れていく。御所実業高校が製作した模型新幹線を借用し、会場入り口の噴水広場に設置し、スタンプを5つ集めると1回乗車できるという楽しみを追加。 ・地下通路はタイムトンネルとして使用していたが昔遊びの体験に変更した。今後も新しい経験・体験を取り入れて子どもたちに喜んでもらえる事業を目指す。 ・子どもフェスタのテーマである「つながれ心！ひろがれ笑顔！」の下、参加するすべての人が1つになり笑顔がますます増えるイベントを目指す。 	事業の総合評価 【 1 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 公民館管理運営事業				所管課	中央公民館
事業の概要	宇陀市民一人一人が、心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、生涯にわたって主体的に学習を継続することが求められていることを踏まえ、生きる喜びを分かち合える生涯学習社会の構築を目指して、地域課題や市民の学習ニーズに即した学習機会の提供を図るとともに、地域に根ざした公民館活動を推進する。					
目標・実績	身近な学習や文化活動が、誰でも気楽に活動できるような環境整備に努め、文化的活動の機会や地域住民と公民館活動をつなぐ情報提供に努めるとともに、各種団体と協力連携し地域の教育・文化の振興を図る拠点とする。また、自主グループの育成を推進し、各分館の施設利用率の増加を図る。 ・平成25年度使用料(4分館) 3,084,235円 ・平成26年度使用料(4分館) 3,052,740円 ・平成27年度使用料(4分館) 3,044,975円 ・平成28年度使用料(4分館) 3,388,675円					
教育自己委員会 の 評価	成果と課題 公民館の施設利用のほとんどは自主グループ及び定期利用団体であり、利用率は概ね順調である。さらなる利用率向上を図るため自主グループの育成に努める。 ・平成26年度自主グループ登録数 39団体 ・平成27年度自主グループ登録数 40団体 ・平成28年度自主グループ登録数 38団体					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 適切な施設維持管理及び運営ができたと考える。しかしながら、老朽化に伴い年々修理箇所が増えてきている。		評価理由 市民が「集い・学び・繋がる」機会と場の提供のため、公民館の必要性は高く、さらなる施設の環境整備に努める。		評価理由 実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与できたと考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<p>・地域の公民館活動は参加者の交流を深め、活動を通して互いに学びあうことが地域をより活性化する因子の一つとなる。現状は、自主グループや定期的に利用する団体の活動が中心であるが、地域の特性を生かし、地域のニーズに応える、地域に根ざした公民館活動を推進していただきたい。</p> <p>・働き盛りの成人はなかなか公民館活動には参加しにくく、そうすると利用者は子どもか高齢者が多くなってくる。元気に豊かな老後をおくるとなると、学習が不可欠である。そういった市民のニーズに適した教育的文化的活動の機会を提供していただきたい。公民館の必要性を前面に押し出し、環境整備に努め、市民が集える場として活動を進めていただきたい。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
--------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>自主グループに留まらず、広く市民が利用しやすい公民館の環境を整備していく。また、市民のニーズに適した教育的文化的活動の機会を提供していくため、広報うだ、ホームページ等により啓発していく。市民に親しまれる公民館としての役割を果たすため環境整備も含め予算措置を講じていきたい。</p>	事業の総合評価 【 1 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 各種講座・教室事業	所管課	中央公民館
-----	--	-----	-------

事業の概要	市民のニーズに合った講座の充実を図り、自主グループ・リーダーの養成とまちづくり・まちおこしなど地域社会参加の促進を図る。「定期講座」は各分館にて開催し、1年を通じて初歩から応用までを学習する。「市民教養講座」、「入門講座」、「生涯学習講座」については各分館を会場とし、各テーマを設けて、知識の向上、趣味の輪の拡大、健康の保持や生きがいづくりを目指した講座を開設。
-------	---

目標・実績	社会教育法に基づき、市民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養向上、健康の増進を図り生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 参加者述べ人数 1,519名 また、各地域(2分館)で出前講座[ちぎり絵教室]を開催した。
-------	--

教育自己評価委員会の	成果と課題			
	各講座・教室では、応募者が定員以上になり抽選を行うものもあるが、応募率が半分のものもあった。人気の定期講座は年7回から8回へ回を増し、参加人数が少ない講座については、開催時期や時間を変更やすなどの工夫が必要と考える。近隣市の講座の動向や市民が求める講座の把握に努める。また、周知についても広報誌や宇陀チャン以外にも「公民館だより」を発行し、より多くの参加者を得るよう努め、今後さらに幅広い年代の受講生を対象とするため、時代に合った講座や開催時間の検討も必要と考える。同一講座を各地域別に開催できないか検討中である。			
	達成度	A	必要性	A
	評価理由 幅広い年代層に興味を持っていただく講座内容、開催日時の検討が必要。また、参加者が少ない講座については様々な方法の周知を行い、随時募集を行うことも検討する。	評価理由 社会教育法に基づく公民館活動を達成するため必要と考えるが、適切な講座数、募集人数並びに開催回数の見直しも必要と考える。	評価理由 講座及び学級等を開催することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉等の促進を図ることができる。	A

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	<ul style="list-style-type: none"> ・定期講座、生涯学習講座、随時募集の市民教養講座や入門講座、出前講座等、各種の講座・教室の開催は、多様な生きがいづくりに寄与している。「受講してよかった。ためになった。次も参加したい。」そんな想いが今後も育つよう、事業の改善・工夫・検討をお願いする。 ・市民のニーズに対応した講座の開設を実施しているが、参加者の固定化など広がりが見られない講座も目立つ。開催回数が適切であるか、講師の資質はどうであるか等を常に検証して、さらに魅力ある講座を開催されたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、定期講座、生涯学習講座、随時募集の市民教養講座や入門講座等各種の講座・教室の開催していくとともに、さらに事業の改善・工夫・検討を進めていく。 ・市民のニーズに対応した講座の開設を図る。特に、参加者の固定化などの打開策として多種多様な内容を考慮した上での予算措置を講じる。また、魅力のある講座については、回数を増やすなど各分館においても開催にすることにより広く市民が参加しやすい環境づくりに努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 地域公民館活動支援事業				所管課	中央公民館
事業の概要	「宇陀市地域公民館活動支援補助金交付要綱」に基づき、対象となる公民館活動を行った自治会等に対して補助金を交付する。					
目標・実績	地域ぐるみで活発な生涯学習活動を目的とした地域公民館事業を支援することにより、より一層の充実と活性化を図る。 ・平成25年度補助金交付額実績:2,215千円 ・平成26年度補助金交付額実績:2,290千円 ・平成27年度補助金交付額実績:1,500千円 ・平成28年度補助金交付額実績:1,500千円					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 地域づくりと連帯意識の醸成を図るための事業を推進するため、活動を支える助成措置は、有効に活用されてきたと考える。ただ、地域による支援補助金の平等化の方向性と、市が推進している「まちづくり協議会」の趣旨により、地域での公民館活動事業もまちづくりの一環として大きくとらえて、支援補助金の見直しが必要と考える。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 榛原地域50館及び室生地域8館に対し、補助金を交付し、地域にあった公民館事業を展開した。		評価理由 地域の活性や問題解決のため、市は「まちづくり協議会」の設立を推進しており、まちづくり協議会補助金への移行が望ましいと考えるが、まち協だけではカバーできない生涯学習への積極的な取り組みを支援する。		評価理由 公民館事業もまちづくりの一環として大きくとらえ、地域の公民館事業への分配を受け事業展開は図れるものと考え。平成29年度をもって本補助金の廃止を進めているが、新たな補助金の制定に向けて検討が必要と考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公民館活動への補助金交付は、地域の活性化にとって極めて必要な事業であった。今後は各地域のまちづくり協議会へと事業内容が移行される予定であるが、今までの取り組みや経過を活かし、地域の実情に十分応えられるように協議会との連携を図っていただきたい。 ・榛原、室生だけでなく大宇陀、菟田野に対しても交付金の平等化を図るために平成29年度で廃止されるということであるが、新たな補助金の制定を速やかに行う必要がある。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 5 】</p>					
----------------------	---	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 今までの活動内容や経過等の精査を踏まえ、榛原、室生だけでなく大宇陀、菟田野も含めた宇陀市全域に対して新たな施策として、従来の補助金の交付ではなく、各分館を軸とした社会教育の充実を図るために「まちづくり協議会」とともに公民館としての役割を図っていく。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 4 】</p>					
-------	---	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 市美術展事業			所管課	生涯学習課
事業の概要	平成28年11月3日～11月6日の間、市役所4階、5階において絵画・書芸・写真・彫塑工芸部門を設け、展覧会を実施した。				
目標・実績	出展数100点、来場者数延べ670人。今後は、参与作家による作品の展示など、より格調高い市美術展覧会を開催していく。そのことにより、創作意欲の向上を促し、美術文化の向上を図る。				
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題				
	出展数、来場者ともに前年度より減少したが、参与作家に出展をいただくなど好評を得た。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	来場者がやや少ない。開催の告知の仕方を考えるなど来場者の増加を図る。		文化芸術活動を行うことで創造力や表現力を高め、豊かな心を持った社会を形成していくに資する事業である。		文化芸術作品を創造し、鑑賞することで、心豊かな社会形成・魅力あるまちづくりを推進する。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 から の 主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・市美術展は第11回目を迎えたが、市民の絵画・書芸・写真・彫塑工芸作品の見事な出来映えに圧倒される。また、参与作家や作品審査員からの出品作品や幼児の作品も展示され、年々充実した美術展となってきた。さらに展示スペースの工夫、常設できる展示場所の課題等も探らねたい。 ・市役所が市の美術展の会場になっていることはもっと周知されなければならないように思う。できれば期間の延長等も、作品の管理等の課題もあるが考えていただきたい。教育総務課と連携して、スクールバスを利用した市内の児童生徒の学校・学年単位の見学はできないものか。いいものを身近に見ることは有意義であると考え。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後 の方 針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品出展数及び来場者が減少していることや点検評価員の意見を踏まえ、今後の市美術展では、まず作品審査員を固定するのではなく、他方からの目で評価してもらおうよう変更を図る。次に開催の周知について、市民全体に行き届くよう広報チラシの折込及びポスターの掲示、また宇陀チャンネルの活用及び安心安全メールでの一斉通知で周知を図る。 ・期間の延長及び作品の管理等、また常設できる展示場所は今後の課題である。より良い施設・文化の拠点となる箇所での開催、立地条件等を踏まえ市民の身近なものとなる開催地を検討していく必要がある。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 文化財保存修理等補助事業		所管課	文化財課			
事業の概要	国・県・市指定文化財(以下、「指定文化財」という。)の所有者(個人・宗教法人)が行う防災設備点検等経費の負担軽減、所有者が行う建造物等の保存修理経費の負担軽減、所有者が行う環境整備(草刈、庭木の剪定)経費の負担軽減、また市指定民俗文化財を維持伝承していくため、後継者を育成するための経費等の負担軽減を図るため、これら文化財保護に関して補助金を交付する。						
目標・実績	指定文化財の保存修理、防災設備点検、環境整備、民俗文化財伝承等を実施した団体又は個人に対して補助金の交付を行い文化財の保護を推進する。 (平成28年度 保存修理 2件・防災設備点検等 10件・環境整備 3件・民俗文化財伝承事業 4件)						
教育委員会 自己評価 の	成果と課題						
	指定文化財の保護・管理等の諸事業の実施により、適切な状態に保たれている。点検等により不具合が発見されれば修理を行い、毎年の防災設備の点検等は消防法の規定に基づき実施され、機器等は良好に作動している。今後も、指定文化財の適切な保護・管理を行っていくため、国、県、所有者と連携しながら継続していく。						
	達成度	A	必要性	A	有効性	A	
評価理由	所有者とともに指定文化財の適切な保護・管理等ができた。		評価理由	指定文化財は、その重要性に鑑み、適切な管理を行うために様々な法的規制があり、指定文化財の保護・管理を適正かつ円滑に実施するには、特別な経費を要する。事業実施にあたり、所有者の負担軽減を図ることは、文化財の保護に貢献する。		評価理由	指定文化財の適切な保護・管理が実施でき、貴重な文化財を後世に伝えていくことができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な 評価意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者の理解の下、指定文化財の保存修理等に必要な経費の負担軽減を図る補助金交付の事業であるが、現存の文化財を適切に維持管理し、後世へ継承していくことは今を生きる者の務めである。事業を推進し、さらなる有効な活用をお願いします。 ・個人としての持ち物であっても、文化財として価値のあるものは適切に保護され後世に継承されなくてはならない。所有者とともに、適切な保護管理に努められ、そのことを市民に理解してもらいながら、後継者の育成も継続して行っていただきたい。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
---------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>文化財所有者に理解を求め、適切な保護管理ができるよう費用負担の軽減を図り、文化財を後世へ継承できるよう努める。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 薬の館管理運営事業				所管課	文化財課
事業の概要	市民の歴史・文化意識の向上を図るとともに、伝統的建造物に対する理解を深めることを目的とし、内部公開を兼ねた展示施設『宇陀市歴史文化館「薬の館」(宇陀市指定文化財)』の管理・運営を行っている。 建物の公開・管理・運営等が主な業務で、シルバー人材センターに管理委託している。建物の修理等は文化財課が実施している。					
目標・実績	松山地区の代表的な商家町屋で、薬関係の展示施設となっており来館者が多く訪れる。生涯学習の教材として小学校等の授業にも活用されている。宇陀松山の歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設である。 薬の館(旧細川家住宅)は、江戸時代末期の建築と推定される。細川家は薬問屋であり、薬商として「人参五臓園」「天寿丸」という腹薬を販売。館内では薬関係の資料を中心に展示し、平成28年度には大型の鍾馗像の寄贈を受け展示している。有料公開{入館料大人300円小人150円(団体 大人200円小人100円)}。平成28年度の入館者数は、2,993人。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 月・火の休館日においても、視察団体等の予約が入れば特別開館し、来館者数の確保に取り組んでいる。 平成28年度の入館者は、平成27年度より増加した。 今後も入館者数を増やすための展示やイベントが必要であると感じている。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由 当施設は、重要伝統的建造物群保存地区内にある伝統的建造物でもある。歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設は少なく、公開する必要がある。		評価理由 多くの方々が来館し、当館の薬の歴史を学んだ。必要に応じて管理人が館内の案内や説明を行い、理解を深めてもらっている。また、他市町村等からの視察や市行事での施設見学会も行っている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・「薬の館」は、薬関係の資料展示はもとより、新しく寄贈された鍾馗像の展示もあり今日までの商家町屋の様子を知り、宇陀松山の歴史を学ぶことができる貴重な歴史文化館である。来館者のさらなる増加を期待する。</p> <p>・宇陀市と薬の関係をいろいろな角度からまとめて盛り上げていき、他市町村からの集客につながるような活動の中心として薬の館のあり方を考えられたい。せつかくの鍾馗像をもっと活かした利用を考える必要はないか。</p>	<p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
----------	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>宇陀市は薬の町を前面に押し出し、大和当帰の栽培にも力を入れている。今後、薬草展示や鍾馗像を前面にアピールし、来館者の増加に努める。</p>	<p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	--	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 重要伝統的建造物群保存地区保存事業				所管課	文化財課
事業の概要	周囲の環境と一体をなして歴史的な風致を形成している伝統的な建造物群を「伝統的建造物群保存地区」、国は特にその価値が高いとして宇陀松山地区を奈良県で2番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定した。国選定は平成18年7月5日 ・指定面積17ha ・保存事業期間 平成18年度～ 歴史的街なみの特性を維持回復するため、地区内の伝統的建造物の修理・それ以外の建造物の修景に対して補助金の交付を行い、防災施設等の整備も行う事業である。					
目標・実績	歴史的風致を構成する要素である伝統的建造物の中でも「特定物件(所有者の保存同意を得た伝統的建造物)」を増やすことが必要不可欠であり、また、伝統的建造物以外の建物の修景も景観の保全には必要であり、これらの修理・修景補助の件数を増やし、歴史的な街なみを保全する。住民参加型の検討会を開催し重伝建地区の安心・安全を図る防災計画を策定した。松山地区への入り口に建つ町家を公開活用するための実施設計委託を実施した。平成28年度の実績は、特定物件の修理6件を実施。					
教育委員会 自己評価 の	特定物件(伝統的建造物)への指定は所有者の同意が必要であることから、町家の修理事業と同時に特定物件指定を受ける所有者が増えている。修理事業の相談時に所有者へ特定物件指定を働きかけることにより事業推進が図れた。今後は、防災計画が策定できたので、松山地区住民と協働で防災設備整備事業を進める必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	町家の修理事業は予定通り完了できた。防災計画が策定できた。町家公開活用施設の実施設計が完了した。		評価理由	修理・修景が必要な物件の数は多く、歴史的景観の保全には町家の回復が必要不可欠である。老朽化した町家は、修理により安全・安心な住居となり、生活環境の向上が図れている。木造建築物が多くを占める地区には、防災計画に基づく防災施設整備が必要である。	
	「街なみの景観が良い」と来訪者も増えてきており、メディアの取材や行政視察も相次ぎ、今後の集客にも期待ができる。					

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・今井町に次いで江戸時代の町家が残る伝統的建造物群保存地区として指定を受けた松山地区の保全事業により、第17回を迎えた宇陀松山夢街道や華小路も一段と鮮やかになり、来訪者も増え、地区の歴史的景観が内外へアピールされてきたことを高く評価したい。所有者や地域住民と連携し、本事業の深化を期す。 ・街なみが一定の景観を有し、保存地区としてこれからの活用が期待される。さらに多くの来訪者を集めるために、地域住民の理解を得ながら「宇陀松山地区」の広報に努められたい。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>					
----------------------------	---	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 町家の修理・修景には市民の理解と協力が不可欠である。今後も、所有者や地域市民とともに町家の保存事業に努め、さらなる来訪者の増加を目指す。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 埋蔵文化財発掘調査事業				所管課	文化財課
事業の概要	市内遺跡の発掘調査、個人の開発行為に先立つ事前の発掘調査、遺跡保存を目的とした範囲確認調査、過年度に実施した発掘調査の調査成果整理、市内遺跡の分布調査、出土遺物保存処理、公共工事に伴う事前の発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の保護対策を講じる。					
目標・実績	遺跡の発掘調査を行い、保護対策を講じるとともに記録を行い、後世に郷土の歴史を伝える。 下城・馬場遺跡では個人の開発行為に先立つ発掘調査と保存のための発掘調査を行い、遺物整理作業(整理箱8箱)を実施、また、8次調査の調査成果整理、出土遺物の金属製品(鉄釘)の保存処理(20点)を行った。 市内の菟田野地区と大宇陀地区において分布調査及び聞き取り調査も実施した。					
教育自己評価の	成果と課題					
	発掘調査により貴重な埋蔵文化財(遺跡)の保護対策(遺跡の記録・遺物整理等)を講じることができた。 市内には、未調査の埋蔵文化財が多数あり、今後も計画的な発掘調査が必要である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	下城・馬場遺跡から多くの遺物が出土し、出土遺物の整理作業等を行い記録を残すことができた。		発掘調査により出土した埋蔵文化財は、郷土の歴史や生活環境を知る上で重要な史料となる。		埋蔵文化財(遺跡)の保存・整理は、郷土の歴史を後世に伝える重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史や生活の様子を知る上で、現存する埋蔵文化財(遺跡)を発掘調査し、整理保存するには緻密な作業や時間を要しているが、計画的に事業が遂行、継続されていることに感謝するとともに、今後も可能な限りの調査や保存活動をお願いします。 ・日々の発掘作業やそれにより得た出土物の整理作業は時間のかかる膨大な作業であると考え、郷土の歴史を後世に伝えるための重要な事業であるので、今後も計画的に進められたい。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 市内には多くの遺跡があり、その多くが未発掘である。今後も発掘調査等を計画的に進め、また、保存活動に努め、宇陀の歴史を後世に伝える。 <div style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</div>					
-------	--	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 街なみ環境整備事業			所管課	文化財課
事業の概要	松山地区の「松山らしさ」の再確認と新たな展開に向けて、「伝統的な街なみ」や「伝統的な暮らし」に着目するまちづくりを進め、総合的なまち活力の再生を図る。 平成13年度より平成32年度までの20年間で、歴史的な街なみの骨格となる道路を中心に、地区内(約35ha)の生活環境施設、公園、防災施設等の事業により、歴史的、生活的、自然的な環境を生かし、住民の発意と創意に基づく街なみの形成を目的とする。				
目標・実績	松山地区の特性に応じた個性的で質の高いまちづくりとするため、道路と電柱の美装化・街路灯整備・公園整備・生活環境施設整備・防火施設整備等の住環境の整備改善を行う。 (宇陀市大字松山地区 整備区域面積 35ha) 平成28年度は松山通り道路美装化工事 工事延長約L=210 m を実施。				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	街なみ環境整備事業により、横断電線類の地中化、道路の美装化工事により、質の高い古い街なみを形成することができてきた。 松山地区の主要道路である松山通り道路美装化工事により、街なみ景観の改善ができた。道路美装化工事も終盤となり、今後も地域住民の協力を得ながら事業を推進する必要がある。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	松山通りは狭隘な地域の主要道路であるが、地元住民の協力により事業実施することができた。		横断電線の地中化と道路の美装化工事は、松山地区の個性的で質の高い歴史的なまちづくりに必要である。		道路美装化が進み、町家の修理とともに歴史的な街なみ環境を生かした、住民の発意と創意に基づく街なみを形成することができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・年次計画的に松山地区の道路、側溝、電柱、街灯等が整備されることで、日に日に通りの景観が増し、古い街なみの風情が濃く漂い、ゆっくりと流れる空間が来訪者に満喫感や感動を与えている。 ・街なみの保存が進み、質の高い「どこか懐かしい街なみ」が生まれた。住民の理解と協力を得ながら、観光地として多くの人が訪れる街になるよう、いろいろな組織が一つになって新たな事業が展開されないものかと考える。 				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 道路美装化も終盤を迎えており、今後は宇陀松山城跡への入口となる春日門周辺の整備も実施する。				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 ー 史跡宇陀松山城跡保存整備事業			所管課	文化財課
事業の概要	宇陀松山城は、豊臣政権のもとで、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点として誕生した。残念ながら城は、30年という短い期間でその役割を終えた。宇陀松山城跡の特徴として、城郭全域にわたって城割(しろわり)を受けていることが挙げられる。現在、地表観察等で確認できる城跡の状況は、城割後の姿であり城郭構造を詳細には反映していない。 宇陀松山城跡の史跡指定地は67,667㎡であり、そのうち総石垣づくりの中心郭部分22,450㎡の公有地化を実施している。整備範囲は公有地化を行った範囲を中心に城跡部分を対象とする。				
目標・実績	宇陀松山城跡の特徴として城割を受けていることが挙げられ、遺構内容・城割の状況と範囲・石垣等の崩落箇所の保全・修復等の関係を十分に検討しながら保存整備と城跡麓までの登城路整備を進めている。 平成28年度は、工食用資材搬入路(登城道)予定地の本丸・南西虎口部・南東虎口部で実施した発掘調査(1次・2次・4次・5次調査)の資料整理、遺物整理を行った。今後も不安定部分の保護・保全の方法、石垣の露出方法を十分検討し、天守周辺部と本丸跡の整備を行う計画である。 城跡麓までの登城路整備事業に伴う立木伐採委託及び2期及び3期の登城路整備工事を発注した。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	宇陀松山城跡を宇陀市のシンボルとして位置づけ、重要伝統的建造物群保存地区に選定された松山地区である城下町と宇陀松山城跡を一体的に整備し、歴史資源として観光施策との連携を図り、集客交流施策に積極的に取り組んでいる。整備途上であるため、来訪者に不便をかけているが、年次的な整備に取り組んでいるところである。また、城跡麓までの立木伐採及び登城路整備工事に着手した。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	文化庁・奈良県教育委員会・専門家などからの意見をもとに作成した整備計画に、年次的に取り組んでいる。		宇陀松山城跡は、宇陀市のシンボルとして位置づけられており、重要伝統的建造物群保存地区に選定された松山地区の城下町と一体的に整備する。		松山重要伝統的建造物群保存地区と一体的に整備し、歴史資源として観光施策との連携を行い、より多くの集客を図っていくことができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の山城から近世の城郭を知る上で、松山城跡の整備は欠かせない。また、この事業と城下町から商家町に至る松山地区の保存活動とが一体化・統合されることで、市観光の中核(平成29年4月 続日本100名城に選ばれる)としてより発展することを期待する。 ・お城ブームで人々の意識が城跡に向いている今、松山城を整備して城下町「松山」に人が来るように早急な整備が必要である。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 宇陀松山城跡への登城道も完成に近づき、今後の城跡整備は飛躍的に進捗することができるため、早期に整備が完了できるよう努める。 なお、10月22日台風21号の影響による豪雨で城跡も大きく被災したため、城跡整備より災害復旧事業が優先されることとなる。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 史跡森野旧薬園保護事業				所管課	文化財課
事業の概要	享保3年(1729年)幕府から官園において栽培していた種苗が下付され、薬草等を植えたことにより薬園が始まる。大正15年には、国史跡に指定され史跡地内の桃岳庵や石水亭などの建造物も遺存し、古くから地域に自生していた有用植物が生育し、生態学的な価値も高く薬園としての旧態が良く保たれている。しかし、近年は環境悪化が進み建造物は老朽化による傷みも著しく、また、獣害による植物の衰退、近縁種との交雑による種の消失等の荒廃が進行しつつある。江戸時代から引き継がれてきた当園の適切な保存・管理を行うため、保存活用計画を策定し保存事業を実施する。					
目標・実績	国史跡森野旧薬園が有する特徴や価値を良好な形で維持するために、旧薬園の沿革・既往調査資料・現状調査により、旧薬園がもつ本質的価値を明らかにし、保存活用計画を策定する。 旧薬園内の既往調査資料の整理など文献調査と現地踏査による現状の把握、史跡指定範囲の敷地測量を実施し、保存活用計画を作成するため、有識者による策定委員会を開催し活用計画案の内容を精査した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 旧薬園の既往調査資料の整理、現地踏査により旧薬園の施設管理や薬草管理等の問題点が策定委員会で議論され、保存活用計画案の内容が審議された。 適正管理は森野旧薬園だけではなく、行政や地域住民等がどのように関わり保存・管理を進められるかが課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	森野旧薬園保存活用計画の内容が策定委員会により議論され、計画内容がまとまりつつある。		評価理由	旧薬園を良好な状態で維持するためには、計画的な管理を行うための保存活用計画が必要である。	
				評価理由	旧薬園は松山重伝建地区内に位置し、観光客が有料にて見学できる施設であり、環境整備することにより観光スポットとしてさらに来園者が増えることに期待できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する日本最古の生きた史跡「私設植物園」である森野旧薬園を適切に保護・管理することは、江戸時代に200軒もの薬問屋があったといわれる松山の歴史を知る上で、貴重な保存事業である。今後も計画的な施策に期待する。 ・自然環境を大切にしながらの薬園は歴史的価値も高く、早急に保存活用計画を作成し、保存事業を実施されることを望む。さらに、保存管理のためにも、薬草についての知識のある後継者の育成も急がれる。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
-----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>森野旧薬園保存活用計画書も策定され、今後は森野旧薬園内の古い施設の保存整備と薬草の保護等に努める。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・自然保護と環境学習の推進 ー 国指定天然記念物等保護再生事業			所管課	文化財課																					
事業の概要	宇陀市内には多くの国指定天然記念物が存在し、これらを後世に伝えるためにも危機に瀕している天然記念物を保護し、再生を図る必要がある。 向淵スズラン自生群落は、自生地が南限地として国に指定されているが、環境の変化によりスズランが衰退しかけている。また、特別天然記念物オオサンショウウオは、宇陀市室生の河川に生息していることが近年確認されたが、全国的に生態系が解明されていないことから、まず棲息状況確認とチュウゴクオオサンショウウオとの交雑化を確認、記録し、日本固有種の保護が急務となっている。																									
目標・実績	向淵スズラン自生群落は、天然記念物に指定された昭和5年頃は、自生地周辺は雑木林であったが、時代の変遷により、杉・檜の植林による林地転換されたことによる日照不足や、下草刈りの減少等によりスズランが減少してしまった。平成8・9年の原因調査では約5,500株であったが、その後の保護活動として年2回の下草刈りの実施等により、平成23年では約36,000株まで回復することができた。 オオサンショウウオは、現在、室生ダムより下流の室生川、大野川、深谷川等で生息が確認されている。平成24年度に三重県教育委員会・奈良県教育委員会が策定した「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針」に基づき保護調査を実施している。																									
教育委員会の自己評価	成果と課題 スズランは、これまでの観察と管理や地域住民への現地指導等も行い、平成28年度では約43,500株が生育し、増加してきている。今後も定型な管理や外来種であるドイツスズランの混在が確認されれば、その都度除去する必要がある。 オオサンショウウオは、宇陀市内でこれまでに約220個体が捕獲され、DNA鑑定により12個体の交雑種が確認されている。今後も生息調査等を継続し、日本固有種の保護を図る必要がある。																									
	<table border="1"> <tr> <td>達成度</td> <td>A</td> <td>必要性</td> <td>A</td> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td colspan="3">天然記念物への保護対策により、日本固有種の保護ができてきた。</td> <td>評価理由</td> <td>宇陀市内の天然記念物を保護することは、後世への継承となる重要な業務である。</td> </tr> </table>	達成度	A	必要性	A	有効性	A	評価理由	天然記念物への保護対策により、日本固有種の保護ができてきた。			評価理由	宇陀市内の天然記念物を保護することは、後世への継承となる重要な業務である。	<table border="1"> <tr> <td>必要性</td> <td>A</td> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td colspan="2">外来種等は繁殖力も強く、日本固有種が減衰する要因ともなっている。外来種を排除することは、重要な措置である。</td> <td>評価理由</td> </tr> </table>	必要性	A	有効性	A	評価理由	外来種等は繁殖力も強く、日本固有種が減衰する要因ともなっている。外来種を排除することは、重要な措置である。		評価理由	<table border="1"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>評価理由</td> <td>宇陀市内の天然記念物を保護することは、後世への継承となる重要な業務である。</td> </tr> </table>	有効性	A	評価理由
達成度	A	必要性	A	有効性	A																					
評価理由	天然記念物への保護対策により、日本固有種の保護ができてきた。			評価理由	宇陀市内の天然記念物を保護することは、後世への継承となる重要な業務である。																					
必要性	A	有効性	A																							
評価理由	外来種等は繁殖力も強く、日本固有種が減衰する要因ともなっている。外来種を排除することは、重要な措置である。		評価理由																							
有効性	A																									
評価理由	宇陀市内の天然記念物を保護することは、後世への継承となる重要な業務である。																									

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見	<p>・スズランやオオサンショウウオ等、市内に自生・生息する数多くの国指定天然記念物を保護・再生することは、有意な価値ある事業である。調査活動や観察会等を通して、事業の意義の啓蒙をさらに図られたい。</p> <p>・繁殖力の強い外来種から日本の固有種を守り育てることは、非常に根気のいる地道な作業であるが、地域住民の協力も得ながら、確実に個体数の回復が図られている。後世に継承するためにも、外来種を排除し、固有種のさらなる保護育成に努められたい。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>向淵スズラン自生群落は、これまでの保護事業で少しずつ回復傾向にあるが、獣害も受けたため自生地全体の防護ネット等による保護に努め、また、オオサンショウウオは生息地域が未だに不明なため、今後も河川の生息調査を行い、外来種の排除に努める。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 小学校水泳教室事業			所管課	総合体育館								
事業の概要	市内の小学校2、3年生を対象に、水泳を通してスポーツの楽しさを知り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的として、夏休み2日間にわたり水泳専門講師によって授業を行う。												
目標・実績	水泳技能を学び、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりの推進を図る。												
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>生徒数増減率</td> </tr> <tr> <td>水泳教室生徒数</td> <td>144 人</td> <td>168 人</td> <td>116.7%</td> </tr> </table>					27年度	28年度	生徒数増減率	水泳教室生徒数	144 人	168 人	116.7%	
	27年度	28年度	生徒数増減率										
水泳教室生徒数	144 人	168 人	116.7%										
教育自己評価委員会の	成果と課題 ・小学校生活で低学年に、水泳等のスポーツに親しむことなどで多くの経験を積むことが、その後の学校生活を豊かにする。 ・全学校の参加者を班編成して振り分けることで、受講時間が少なくなる。 ・スクールバスでの送迎に移動時間が多くかかる地域がある。												
	達成度	B	必要性	A	有効性	A							
	評価理由	評価理由		評価理由									
	対象生徒の約4割の子どもたちが参加している。	夏休みの時期を利用して専門講師に学ぶことができる。		水に慣れることができ、水泳技能や基礎体力等が身につく。									

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	・小学2・3年生を対象に夏休み中に開室される水泳教室は、水泳に親しみ慣れることから、泳ぐこと、泳げることを通して、水泳への興味関心をつくる極めて貴重な事業である。また、泳力にもよるが教室参加の児童同士が学校間のつながりが持てるよう、班編成を考慮していることも評価したい。 ・例年、参加対象児童の4割の参加に留まっているようで、少し残念な気がする。2日間しかなく、申し込んでも参加できない児童もいるということであるが、自校にプールの無い児童にとって専門家の指導を受けられる折角のチャンスなので、募集にもう少し工夫が欲しい。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 子どもたちの水泳技能や基礎体力向上のために今後も事業を推進し、募集方法等も工夫しながら参加者の増加に努める。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 水泳教室事業			所管課	総合体育館	
事業の概要	水泳教室を専門業者に業務委託し、一年を通して専門講師から能力に合わせた技能を習得する。 ①水泳教室(幼児コース、児童・生徒コース、成人コース) ②水中ウォーキング ③水中エアロビクス					
目標・実績	ジュニアにおいては水泳の基礎技能を学びスポーツの基礎体力をつける。また、成人は水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながら、健康増進を図る。					
		27年度	28年度	生徒数増減率		
	水泳教室生徒数	406 人	351 人	86.5%		
	ウォーキング生徒数	18 人	7 人	38.9%		
	水中エアロビクス生徒数	15 人	12 人	80.0%		
	合計	439 人	370 人	84.3%		
教育自己評価委員会の	成果と課題 ジュニアオリンピック出場者や全国高校記録保持者を輩出し、水泳選手を育てる役割を果たしている。また、成人においては、水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながらの健康づくりに貢献した。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	前年度に比べ水泳教室の生徒数が減少した。		市内で一年を通して気軽に子どもたち等が水泳を学べる唯一の施設として受講生が多い。	技能に合わせてクラス選択でき、上級から選手コースまで気軽に学べ上達できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの	の主な意見 ・専門講師による能力に合わせた指導を受けながら泳げることは、教室参加者の技能習得や向上、健康増進に貢献している。今後も水泳に関わる諸々の安全対策を講じられる中で、より一層の推進をお願いする。 ・監視員を2名配置し、無料開放の時には3名に増員するなど安全面への配慮を怠らず、無事故できているので、今後とも事故が無いよう万全の注意を払ってほしい。 水中運動は、足腰への負担を減らしながら、筋肉等への有効な刺激を与えることができるので、高齢者社会の今後に向けて、ニーズは増えると考えられる。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 子どもたちの体力向上や選手育成、成人の健康づくりのために今後も事業を推進し、受講者増加につながる環境整備や広報活動に努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業		所管課	総合体育館			
事業の概要	長距離走を通して子どもたちの体力向上と健全育成を図るとともに、スポーツ全般に必要な基礎体力や連帯感を養い、豊かな人間性をつくる。 ・「宇陀市駅伝チャレンジ大会」において、小学校5、6年生の8名1チームとして市内各小学校より集まりタイムを競う。 ・各小学校5・6年生に希望者を募り、駅伝練習を3ヵ月間行った後、「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」に参加する。						
目標・実績	駅伝の楽しさを知り、学校の枠を越えて子どもたちの仲間意識や人を思いやる心を育てる。 ・宇陀市駅伝チャレンジ大会 参加:13チーム(100人) ・奈良県市町村対抗子ども駅伝大会 練習参加:23人 大会成績:19位(39チーム)						
教育自己評価委員会の	成果と課題						
	駅伝の楽しさを知り、基礎体力を高め、仲間の団結を生み、将来にわたるスポーツ振興を図った。						
	達成度	A	必要性	A	有効性	A	
評価理由	チャレンジ大会においては、参加チームが増えた。また市町村対抗においては、参加児童が練習会に熱心に参加し、体力の向上につながった。		評価理由	学校間を超えた仲間づくりができる。		評価理由	駅伝の楽しさを知り、仲間との連携を学ぶことが将来にわたるスポーツ振興と豊かな人間性を育むことにつながる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	・長距離走の中でも駅伝競技は、チームのたすきをつなぐことで生まれる連帯感のような、仲間づくりに欠くことができない要素を含んでいる。心の森福祉公園での駅伝チャレンジ大会、馬見丘陵公園での子ども駅伝大会に向けて関係してこられた方々と、挑戦し続けた児童に大きな拍手をおくりたい。 ・子ども駅伝として、市内の小学校において参加が定着してきているように思われる。参加が増えるにつれて、会場における見学者の整理や車の駐車場問題等の新たな問題も出てきているが、安全面への配慮を一番に大会を進めていってほしい。	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 駅伝という競技を通じて子どもたちの基礎体力の向上や仲間との連帯感を養い、子どもたちの健全育成の一環となるように、安全面にも十分配慮した大会運営に努める。	事業の総合評価 【 1 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 大人のための運動教室事業	所管課	総合体育館																
事業の概要	室内温水プール内の施設を利用した継続型の運動教室の開催。																		
目標・実績	<table border="1" data-bbox="292 533 683 797"> <tr> <td></td> <td>28年度</td> </tr> <tr> <td>健康エクササイズ</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>エアロビクス</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ピラティス</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>ヨガ</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>水中アクアビクス</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>膝腰改善</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>143人</td> </tr> </table>				28年度	健康エクササイズ	11人	エアロビクス	11人	ピラティス	19人	ヨガ	25人	水中アクアビクス	30人	膝腰改善	47人	合計	143人
	28年度																		
健康エクササイズ	11人																		
エアロビクス	11人																		
ピラティス	19人																		
ヨガ	25人																		
水中アクアビクス	30人																		
膝腰改善	47人																		
合計	143人																		
教育自己評価委員会の	成果と課題 運動を始めたいと思っている人や、運動の必要性がある人が運動実践を体験でき、定期的に行うことで運動の習慣化につなげていける。平成28年度は教室内容の変更を行った。																		
自己評価	<table border="1" data-bbox="212 1021 639 1059"> <tr> <td>達成度</td> <td>B</td> </tr> </table> 評価理由 健康のため何らかの運動をしたいと思っている人に運動を実践する場を提供できた。	達成度	B	<table border="1" data-bbox="639 1021 1069 1059"> <tr> <td>必要性</td> <td>A</td> </tr> </table> 評価理由 「ウェルネスシティ宇陀市」を掲げ、市民の健康づくりを推進していく上でも、継続型の運動教室は必要である。	必要性	A	<table border="1" data-bbox="1069 1021 1495 1059"> <tr> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> </table> 評価理由 健康増進、体力維持、疾病予防だけでなく、人とのコミュニケーションを深めながら、心身の健康づくりに寄与できる。	有効性	A										
達成度	B																		
必要性	A																		
有効性	A																		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<p>・温水プールを活用して実施される多種多様な運動教室は、主体的な心身の健康づくりだけでなく、同じ場所で同じ運動を経験する中で、人としての社会性を豊かにすることにつながる。魅力的で継続型の運動教室として、今後も継続していただきたい。</p> <p>・「ウェルネスシティ宇陀市」を掲げ、運動教室事業を展開されているが、利用者数が少ないのが残念である。教室型で、人とのコミュニケーションが大切にされているからこそ、参加者が増えるよう周知に工夫がほしい。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
-----------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 心身の健康づくりに寄与できる継続型の運動教室として、受講者のニーズも取り入れながら今後も事業を推進し、受講者の増加に努める。
事業の総合評価 【 1 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 宇陀シティマラソン事業	所管課	生涯学習課			
事業の概要	「走ろう宇陀！ふれあう心」をスローガンにファミリーの部から10kmの部まで市役所周辺を会場にマラソン大会を実施。 また、温泉手湯や食推元気汁のふるまい、宇陀市のPRなどを行い、宇陀市を県内外に発信していく。					
目標・実績	宇陀の豊かな自然の中で、市民をはじめ参加する方々の健康の維持増進、健幸都市ウェルネスシティ宇陀市を目指し、お互いの交流と親睦を図るとともに、青少年の健全な育成を目指す。 平成28年度は1,800名を超える申し込みをいただくとともに、約400名のボランティアスタッフの協力により、大会を成功させることができた。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 ハーフマラソンの実施の要望が多くあるが、クリアしなければならない課題が多く、非常に困難である。宇陀産品の展示・販売を大会と合わせて行っていただき、好評を得た。 マラソン大会の実施告知を市内中心に、より積極的に実施する必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由		評価理由		
	定員を超える参加申し込みをいただくとともに、約400名のボランティアスタッフの協力による市民協働のマラソン大会となっている。	宇陀市開催のスポーツイベントとしては最大規模であるとともに、健幸都市ウェルネスシティ宇陀市構想の一翼を担っている。		誰もが参加しやすい距離設定で健康保持増進が図れ、市外からの参加も多く、宇陀市のPRにつながっている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は第10回記念大会開催となったが、年々参加者が増え、数多くのボランティアの協力のもと定着してきた市の大きなスポーツ行事である。健幸都市ウェルネスシティを推進するにあたり、宇陀市の個性や特性がさらに表出できる大会の企画運営が探れればと思う。 ・マラソンが人気のスポーツとなり、健康志向と相まっていろいろなところで実施されている。宇陀シティマラソンがその中でも支持者が多く、人気であるのには、スタッフだけでなく市民ボランティアの協力も評価されているからだ考える。おもてなしの心で、これからも事故のないマラソン大会を継続されたい。また、市内の小中学生の参加を増やすための優遇措置を考えていただきたい。 	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康都市ウェルネスシティを推進するために、第9回大会より、地元の小学生・中学生を対象とし、大会前日イベントとして実施している著名なマラソンランナーによる走り方教室を、今後も継続して実施していきたい。 ・宇陀シティマラソンの書き込みをみても、ボランティアスタッフは高く評価されている。宇陀シティマラソンが支持されている理由の一つになっているのは確かで、今後もおもてなしの心で選手をお迎えできるようにお願いしていく。 ・市内小学生・中学生の参加を増やすために、特に参加の少ない中学生に対して、市内割引の率をあげて、参加費を低く設定することで、参加者の増加を目指す。 	事業の総合評価 【 1 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 市民スポーツ大会事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心の健康、体力の増進と競技力の向上を目指すもので、21種の競技を実施した。					
目標・実績	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心身の健康、体力の増強と競技力の向上を目指し、生涯を通じたスポーツ活動の振興を図る。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	21競技団体により各種目において大会が実施された。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	多くの市民に参加いただけた。毎年、楽しみながら参加を継続いただけるよう大会を実施していく。		参加者は、約21種類の競技から自分に合った競技種目を選択し、1,600人を超える市民に参加していただいている。健康増進にたいへん効果的である。		健康の保持増進、体力の向上、余暇の充実といった精神面の健康増進、集団で参加する場合の社会性の育成も図ることができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ目標を持つ人との出会いやつながりが継続して運動をする要因となり、連鎖して「運動していたらいいことがある」という思いを芽生えさせる。スポーツに親しむことは、高齢化社会での健康の保持・増進、生きがいづくりに極めて大事なことであることから、本事業の継続と多様な工夫を期待する。 ・市の体育協会がほぼ全面実施をされているが、それぞれの組織やグループに所属している人たちのものとなっていないか。気軽にスポーツを楽しみたい人にとっては参加が難しくはないのか。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>基本的には市体育協会専門部にて運営をいただいているので、組織グループだけのものにならぬように聞き取り等で点検を図る必要がある。体育協会全体での協議も必要であるが、専門部の会議等を開催し意見聴収及び今後の課題等について協議していく。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部				所管課	生涯学習課
事業の概要	近畿高等学校生徒にスポーツの機会を与え、心身ともに健康な高等学校生徒を育成するとともに相互の親睦を図ることを目的に、農林会館周辺特設コースにおいて大会を共催した。					
目標・実績	愛好家が増えてきた自転車を使った健康づくりや競技を、宇陀市で積極的に活動できるように施策として実施する。ひいてはスポーツツーリズムによる市の活性化につなげる。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	平成28年6月7日、宇陀市農林会館周辺特設コースにおいて、競技参加者・指導者約200人、観戦者約500人、競技役員・ボランティアは約200人の内容で熱戦が繰り広げられた。 競技の間、交通規制を実施するための周辺住民への周知、誘導員の配置などに課題が残った。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
評価理由	宇陀市において2回目の開催となり、ボランティアスタッフ、観戦者も多く参加いただき、成功に終わることができた。		評価理由		評価理由	
	宇陀市において2回目の開催となり、ボランティアスタッフ、観戦者も多く参加いただき、成功に終わることができた。		スポーツによる地域興しや、活性化を図ることや、高校生が日頃の修練を発揮する場として、今後も継続して実施していく。		高校生が積極的に活動できる大会で、次代を担う青少年の育成に有効な事業である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	・2度目の開催であったが、競技関係者のみならず多くの観戦者等の応援、支援もあり盛大な大会となった。本大会が今後も継続開催され、宇陀路を発信することでスポーツを通じた観光に結びつけられることを望む。 ・高体連の依頼と榛生昇陽の自転車部の活躍もあり、宇陀での高等学校自転車競技が定着してきた。この大会は、地域住民の理解やボランティアに支えられ実施できている。事故等がないよう安全面での配慮を最優先に今後も継続していただきたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 ・現在は高校生の男子の大会となっているが、高校生女子、又は中学生の大会も同日実施することができれば、大会がさらに盛り上がり、競技人口の増加、観戦者・関係者の増加を見込むことができる。そこで宇陀の魅力を発信し、観光にもつなげていきたい。 ・自転車競技に関しては事故がおきないように十分な安全対策を警察からも求められており、安全マットの設置や、コースの整備、コースの見直しも含めて、毎回検討していく。交通規制に関しては地元のご理解、ご協力が欠かせない部分であり、直接地元へ足を運んで説明を行う。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

5 まとめ

宇陀市では、「地方教育行政の組織の運営に関する法律」の改正を踏まえ、平成 28 年 3 月に「宇陀市教育大綱」を策定しました。

この大綱は、総合教育会議において、宇陀市の素晴らしい自然環境、地域の教育力、伝統文化を活かした教育について議論を重ね、その目指すべき教育をとりまとめたものです。

大綱では「確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身」を基本に、自己実現のために真摯に研鑽し、次に誰もが楽しく学べるために、教育環境の中長期的な展望を描きつつ、社会全体で子育てや家庭の教育力を高め、さらに社会の一員として義務と責任を果たし、自他の尊厳を尊重し、地域社会の発展に寄与する人間を育て、最後に郷土の歴史や伝統文化に親しみ、地域産業の振興を通して、持続可能な社会づくりのための人材育成を目指すという 4 つの基本目標及びこれを推進するための 5 つの基本方針を設定し、方針に沿った事業に日々取り組んでおります。

さて、平成 28 年度は教育大綱に沿った事業の初年度となりました。目標を実現すべく基本方針に沿って実施された事業については、毎年度、その事業を見直し、効果を検証し、改善されなければなりません。

宇陀市教育委員会では、教育行政のさらなる充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、ここに「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」（平成 28 年度施策・実施事業分）をまとめました。平成 28 年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目ごとに分類し、目標の達成状況・進捗状況について教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価した本報告書については、市議会に提出いたします。

宇陀市のみならず日本全体において、少子高齢化や高度情報化など厳しい経済情勢や格差社会の出現などを背景として、教育を取り巻く社会情勢は大きく変化してきており、学力・学習意欲や規範意識、体力・運動能力等に関する課題が山積しています。

今後の宇陀市教育委員会の方向性として、宇陀市教育大綱にある『子どもたちの「生きる力」と「夢」を育むために、自己の可能性を追求し、住みよい地域社会の一員としての役割を果たし、お互いを尊重しあえる豊かな人間性を育む』事業の展開に引き続き邁進してまいります。